

## 第2回 砥川部会公聴会議事録

- 開催日時 平成14年2月3日(日)午前9時30分から午後0時45分
- 開催場所 岡谷市文化会館 小ホール
- 出席委員 宮澤部会長以下19名出席

田中治水・利水検討室長

それでは定刻となりましたのでただいまから「長野県治水・利水ダム等検討委員会 砥川部会」第2回の公聴会を開催いたします。

開会にあたりまして初めに宮澤部会長からごあいさつをいただきたいと思います。お願いします。

宮澤部会長

皆さん、今日はお足元が悪いところのように大勢の皆さんがお集まりをいただきましてありがとうございました。本日は12月23日に公聴会第1回目を開催させていただきましたが第2回目ということで利水の問題について今日開催をさせていただいたわけでございます。本当にそれぞれ皆さんや、また関心のある方々のファクス等々も私の方にもいただきまして心から感謝を申し上げますとこであります。

まず、今日の次第に入る前に、今までの経過をご説明をさせていただきたいと思うところであります。平成5年1月の22日でございますが、河川法17条におきまして利水者、この場合は岡谷市と下諏訪市でございますけれど、県と利水協定を結びました。その中で平成5年、国・大蔵省の方からダムの建設採択がございまして、ダムということでそれぞれ準備をしてきたところでございます。ところが昨年2月の20日、長野県知事の田中知事から「『脱ダム』宣言」が発せられまして、去年、つまり今年です。下諏訪ダムの予算をゼロにされるという形があったわけでございます。その中で県議会がそれでは住民の皆さんや今まで約束されてこられたダムの経過から利水の問題等を含めて準備をされておられる皆さん方に失礼ではないだろうか、おかしくなるのではないかということで県議会が増額修正、当時の建設省、国土交通省ではその予算2億2900万が生きておりましたので、その予算をそのまま復活させて修正で県会を通したわけであります。そして県議会はこれでは困ってしまうということで九つの河川について検討する。またこれから将来にわたってもこのような検討する長野県治水利水ダム等条例を42年ぶりに県議会が主導でつくりました。そして検討委員会が設置をされたわけでございます。そういうような形の中で現在今日までに6回にわたりまして検討委員会で審議をそれぞれの角度からされてまいりました。基本高水の問題。それから利水の問題。それから財政の問題。それから森林の問題と。それぞれワーキンググループをつくりまして、それぞれの河川に対して基本的な条件を調査をしてまいったわけでございます。その中で部会をつくるかということになりまして、特にこの砥川の部会につきましては大変様々な情勢が絡み合っていて、住民の皆様にもう既に用地の買収等々の問題が発生してるので早く結論をだしていただきたいと、こういうような要請もございまして、砥川とそれから浅川、この二つにつきましては部会を設置をして審議に入ったということでございます。この部会はその条例をお読みいただければわかるわけでございますが、あくまでも住民の皆さんの声をお聞きするという立場で部会は設置されるのが本筋とされております。ですので、利水の場合でしたら、水を利用される皆さん。それから治水でありましたらその流域住民の皆さん。この皆さんの意見をお聞きすると

ということが、それぞれ九つの河川の中で重要なことであると認識して、今日まで至っているところでございます。そんなような経過の中で、この砥川部会では治水と利水、それぞれ分けさせていただきました。治水については治水の形で今集中審議をしております。それから利水につきましては、1月21日にそれぞれの委員の皆さん方から、特に地元の声を代表されて選出されております特別委員さんの意見もそれぞれ出していただいて、1回目の利水に対する検討を行ってまいりました。今日は私ども特別委員、また検討委員、それぞれ持論は持っておりますけれど、それぞれ流域住民の皆さんのご意向、意見をまず第一にしっかりと抱いて、そして案をつくっていく。これが重要なことでございますので、第2回目を計画をさせていただいたわけでございます。その中で大変申し訳なく思うところがございます。それは、利水に関しましては特に水道水。隣に特別委員、地元の理事者として、市長さんと町長さんがお見えでございますが、水道水・下水の問題につきましては、これは市町村が主体になって整備をするということで、県は決定権がございません。あくまでも市町村の意見で決定されること。また農業水利権等の水利権は河川管理者とそれからそれぞれの団体とで結んでいるものでございます。そういうことから考えますと、ここの検討委員会との部会でそういうことを審議すること、これはあまりにも少し行き過ぎではないかなあというご意見も私のところへファクスで何件かお寄せいただきました。でも事の経過でございますのでお許しをいただいで今日はそのような問題点につきましてもどうかご論議が出ると思っておりますが、お許しをいただきたいと思うところでございます。そのような経過、それから今日に至るところ。私は今回も申し上げるところでございますが、利水の問題も治水の問題にいてもそうでございますが、住民が選ぶということでございます。どうか部会が、住民の皆さん方の声を代表するような結論を導くために、どうか建設的な心静かなご意見をお寄せいただきたいと願うところでございます。そんなことで、今日進めさせていただくわけでございますので、どうかよろしく願いしたいと思いません。ごあいさつをまず終わらさせていただきます。

#### 田中治水・利水検討室長

どうもありがとうございます。それでは今日ここにお見えの委員の皆様。特別委員の皆様をご紹介いたしたいと思えます。まず部会長から向かって、皆さんから見て右側ですが、まだ時間の関係で朝遅れておられる高橋部会長代理。それから次、植木委員さん。それから高田委員さん。それから浜委員さん。それから松島委員さん。それから宮坂特別委員さん。藤森特別委員さん。それから西村特別委員さん。それから中村特別委員さん。それから皆さん、部会長から向かって左側になります。林特別委員さん。それから新村特別委員さん。小沢特別委員さん。笠原特別委員さん。佐原特別委員さん。清水特別委員さん。武井秀夫特別委員さん。武井美幸特別委員さん。それから中島特別委員さん。以上の皆さんでございます。それでは部会長、公聴会の進行の方をよろしく願いしたいと思えます。(

#### 宮澤部会長

それでは進行させていただきます。今日の進行につきましては、まず検討委員会でのワーキンググループでそれぞれ岡谷市・下諏訪町の抱えている利水の問題等々の現状を検討していただいた結果から今現状。これは部会でも出されてる意見もいろいろございますが、説明をしていただき、それで皆さん方に今岡谷市、下諏訪町がおかれている利水の問題を的確につかんでいただきたいと思えます。説明が終わったところで休憩を取りたいと思えます。それから集中的に2時間を予定してございますけれど、皆様方からの意見を5分、5分では短いじゃないかという意見もございます。しかし、前回の治水の時も長

い方がおられたんで、機会の公平とこういうことからしまして、5分経ちましたらベルを鳴らさしていただきます。ベルを鳴らさしていただきましたらどうかまとめに入っていただきたいと、あんまり長くなるようでしたら部会長の方から制止するようにと部員の皆さんからご意見が出ておりますので、そんなこともどうぞお含みいただきたい。それからですね、前回はそうでしたが、残念だけれど発言できなかった方がおられた場合はどうかメモにさせていただきましたり、お名前とそれからご住所を明確にさせていただきますして私あてに今ここで預かりまして、そのご意見を各部員の皆さんにお配りいたして今後の参考にさせていただきたいと考えております。どうぞ皆さん方の積極的なご意見をお願いしたいと思うところであります。

それではまず最初に検討委員会の利水ワーキングの座長は浜さんでございます。浜さんの方からご説明をいただきまして、また関連の皆さんからもご説明をいただきまして、まず皆さんのこれからの討論の参考と言いますか、基本の考え方、認識にしていまいりたいと思うところでございます。よろしく願いいたします。はい、どうぞ、浜委員。

#### 浜委員

ご紹介いただきました利水のワーキングの座長を務めております浜でございます。利水のワーキングは今部会長からもご説明がございましたとおり我々の「治水・利水ダム等検討委員会」の方から公選に4人を選出をしていただきまして、岡谷市及び下諏訪町の水の、上水道の給水量の予測、それから水道水源に対する対策について検討を重ねてまいりましたので、ここで市民の皆さんにご発表をさせていただきたいと思っております。じゃあプロジェクターを使ってやりますのでお願いします。

約40分ほどの説明になるかと思っておりますのでひとつお願いをいたしたいと思っております。

まず、皆様のお手元に資料がお配りされていると思っております。「利水ワーキンググループ報告書（砥川流域）」この資料でございますが、よろしいございますか。これの1ページをご覧くださいと思っております。まず岡谷市と下諏訪町の計画給水人口、計画給水量についてでございます。この調査におきましては今説明を申し上げましたとおり検討委員会の要請を受けて我々が検討をしてきたものでございまして、給水量の人口等につきましてはコンサルタントに委託を申し上げて調査をいたしました。委託経過におきましては平成13年の11月5日に入札を行いまして、ここに書かれております会社と契約をいたしました。調査目的でございますけれども、岡谷市及び下諏訪町の将来の給水人口、給水量の予測を行う、ということでございます。基本的な方針でございますが、まず岡谷・下諏訪町の現状の把握でございます。これにつきましては社会的な条件、すなわち人口・土地利用・下水道・産業構造・交通等を考慮する。2番といたしましては、関連する他の計画でございます。市町村の振興計画・総合計画などでございます。3番といたしましては、水道の特性。これは水需要の実績・水道普及率。それから水質の状況等を調査するということでございます。この水需要の予測につきましては現況の把握等に基づきまして将来の見通しを得るため基本的に20年の平成32年度を目標に計画人口それから計画給水量を予測をいたしました。これらにつきましては、当然今までの経過もございまして岡谷市・下諏訪町の資料等の提出をいただき協力を求めたわけでございます。事業認可と今回の調査の違いについてでございます。社会情勢のまず違いとしては、平成4年に認可を取得しました湖北行政事務組合の認可計画の算定基準となりました過去の実績データ。これは昭和54年から平成3年でございまして、これはバブル期を含む期間であったことも事実であります。一方、今回の調査で算定基準に用いている過去の実績データ。これは平成3年から12年でございまして、これはバブル期が終わりまして今日の景気低迷

の時期であるということであり、2番目に開発構想でございますが、認可計画時点では住宅団地や各種のいろんなリゾート構想、工業団地の開発計画というものが大変活発な時期でありました。現在はご承知のとおり景気低迷でそれらの問題についてもいろんな論議をされているわけございまして、その結果といたしまして、調査の結果といたしまして、開発による増加する人口。これは岡谷市が認可計画時点では6970人であったものが今回の調査におきましては4360人と。下諏訪町においては4120人に対しまして2741人になっております。それから業務・営業用の水で、水道でございますが、これは岡谷市において認可計画時は6488立米パー・デیلیー(m<sup>3</sup>/日)。一日に6488。今回の調査では5100となっております。下諏訪町におきましては4813に対しまして3250ということになっております。それから工業用水については岡谷市認可時6379に対して4400。下諏訪町2400に対して1150となっております。それから今回の調査結果でございますが、計画給水人口。これをまとめてみますと、岡谷市におきましては認可計画時6万2800人でございます。しかし先ほど申し上げましたような様々な要因を考慮して今回の調査では6万とび4百人ということになり、その差でございますが2400人というデータでございます。下諏訪町におきましては2万7820人に対しまして2万4100人。3720人の減となっております。計画給水量でございますけれども、岡谷市におきましては4万トンの認可計画に対して3万3800トン。その差が6200トン。下諏訪町におきましては2万トンの取水量に対しまして1万4100トン。マイナス5900トンと。こういう結果になったわけでございます。この経過に至るまでの詳しい説明につきましては今日県の方から説明担当員がまいっておりますので、この細かいデータにつきましては説明をしていただきますのでよろしくお願いいたします。

#### 県食品環境衛生課 海谷主査

それではご説明いたします。資料ですが下諏訪の水需要予測という資料が続いております。そのあと岡谷市、その資料が16枚あります。その後ろに水需要予測ということで括弧、岡谷市・下諏訪町。この資料がついております。それをこれから画面に映しながら説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは水需要予測といたしまして、岡谷市の人口から説明いたします。水需要予測の手順といたしまして、まず給水人口の予測。そして給水量の予測。それで参考図書といたしましては以下のとおりです。給水人口の予測手順ですが、まず行政区内人口の決定。それについては過去の実績値から推計いたしまして、あと社会的要因の検討。これは開発等の人口増として予測される部分です。その合計値が行政区内人口となっております。そして引き続きまして給水人口の決定を算出していきます。人口予測の方法ですが今回は時系列傾向分析の6式を使ってこの中から実績値に相関性のあるものを採用し推計いたしました。そしてもう一つ、要因別分析による推計といたしまして、コーホート法についても検討しております。そしてこの人口の実績値です。平成3年から12年です。傾向といたしましては、やはり減少傾向にあります。それを推計したものがこの図です。これは時系列分析による6式のうちの3式で、グラフ化できる3式について表示してございます。その結果より相関性があるべき曲線を採用して5万6135人という値を採用いたしました。それと今度コーホート法での比較ですが、トレンドとは、時系列分析でいうこのラインで、長期的な変動をトレンドと申します。主に時系列分析をトレンドと言っております。そしてこれがコーホート法での推計値です。今回はこの黒。これが実績値でこの実績値の傾向を見まして、平成9年から12年のこの人口減が大分鈍化しています。この辺を含めた推計

でよりこのトレンドのべき曲線が妥当ではないかということで、今回この数値を採用してございます。そして先ほど申しました人口増ですが、開発等による人口増の社会的要因について、これは主に土地区画整理です。区画整理と宅地造成、そして大学誘致、これらの要因がございまして、それらを含めた人口、行政区域内人口ですが、これについては平成32年度の目標年度で6万5百人と決定しております。それをグラフ化したのがこれです。そして給水人口の決定ですが、岡谷市の中には山の神簡易水道というものが行政区域内にございまして、それを差し引いて行政給水人口は6万4百人と決定いたしました。続いて、これがグラフ化したものです。続きまして給水量の予測ですが、これは用途別水量をまず予測します。その内訳といたしまして生活用水、これは通常的生活用水です。そして業務・営業用水、工場用水、その他水量を決定いたしまして、一日平均給水量を算出いたします。それに基づいて一日最大給水量を算出いたします。これがその内訳です。生活用、業務・営業用、工場用、その他と、そういうことで算出し決定いたします。はい、次お願いします。これは生活用水の一人一日使用水量の実績値です。給水量としましては240リットル前後をあまり変動もなくいってるということで、今回は平均給水量を241リットルと決めまして、それに先ほどの人口6万4百人の実数で6万363人を241リットルに掛けまして一日の生活用水量を決定しております。はい、これは業務・営業用水量の実績値でございまして、業務というのは、主に公共機関、病院、あと学校、官公庁などのあまり急激に増減のない水量と言われてる部分です。それで営業用水。この営業用の部分はこれは飲食店、スーパー等の使用水量です。それで傾向といたしましてはやはり減る傾向にございまして、減少傾向です。はい、これを時系列分析で推計した結果がこの図です。これについてはやはり今回より相関性のある、次いでください。年平均増減数を採用しております。この業務・営業用等についてはこれは景気等に大分影響されるものでして、単に推計値で数学的に出た数字、この2635トンが妥当かどうかというのは10年後20年後の景気をいかに予測できるかと、大変難しい部分がございますので、今回、こういうものについては実績値の平均値、最大値、そしてこの数値、これを含めて検討した中でより最適なものを採用していくという考えで行っております。その結果が4800トンに、これ大学誘致の300トンを足した5100トン。これを業務・営業用水量と決定いたしました。はい、続きまして工業用水量ですが、これについてもやはり平成3年から平成12年。減少傾向にありまして、若干8年9年には盛り返してはいるんですが全体的に減少傾向にあります。はい、それに実績に基づいて分析した、時系列で分析したのがこの表です。はい、これについては年平均増減数がより数式の中では妥当だということでこの2016トンという数字が出てはいるんですが、先ほど申したようにやはり景気に大きく左右される部分ですので、これについてもやはり平均値、過去の平均値、最大値を考慮した中で、今回はこの最大値について採用しております。その結果がこのようになり、4400トン。これを工場用水量ということで加えております。はい、岡谷市はその他水量はございません。給水量の算出は表のとおりです。はい、給水量のこれをまとめたものです。この生活用水量、これは1万4548トン。これは一人一日241リットルに人口の6万363人、約6万4百人を掛けた数字でございまして、そして業務・営業用、工場用、そして一日平均給水量2万7千トン。それで一日最大給水量3万3800トン。それでまとめますと、岡谷市の場合はこのようなグラフになります。平成32年度の目標年度で給水人口については6万4百人。給水量これ日最大ですが3万3800トンと、こういう結果が出ております。

引き続きまして下諏訪です。はい、下諏訪町について予測方法、考え方は岡谷市と同様に行っております。予測方法についても同じ式を採用しております。それで人口ですが、行政区域内人口の実績ですがやはり少しずつ減る傾向にあります。それを時系列分析で行った結果が以下のとおりです。その結果

年平均増減数が妥当であるということで2万1318人と値を採用しております。そして時系列のトレンドとコーホートの方を比較したのがこの図で、やはり過去の実績のこの傾斜のラインとトレンドのこちらの数がより相関性があるということでトレンドの方を採用しております。これが開発等による人口増の部分です。土地区画整理事業がありまして、宅地造成、あと集合住宅・マンション計画等があります。はい。それら併せまして2万4100人という結果が出ております。下諏訪町さんの場合は給水区域内人口と行政区域内人口がイコールですので同じ2万4100人を採用しております。これが予測グラフです。給水の量の予測についても同様にやっております。内訳についても同様です。これは生活用の一人一日使用量の実績です。増減は大きいんですがほぼ横ばいと。ここが220リットルで、ここが240リットル。大体230から240の間を行ったり来たりしています。下諏訪町の場合は235リットルで決定しております。それに人口を掛けた値が5654トンという数値になっております。これは業務・営業用の実績値です。やはりこれも年々減少傾向にあります。これは時系列で分析した結果です。はい。これも岡谷市さんと同じように時系列で分析した結果が1624トンですが、やはり10年後20年後の景気のゆくえが今の段階では大変に予測するのが難しいということで、平均値、最大値を考慮した中で最大値の3250トンを採用しております。これが工場用水量の結果です。これも平成7年ではかなり盛り返してはいるんですがやはり全体的に減る傾向ということで、これが時系列で推測したグラフです。はい。時系列でいきますと大分大きく632トンと減ってしまうんですが、やはりさっきのグラフのように平成7年でぐっと伸びることも数年の間では可能性としてはあるということで平均値、最大値を考慮した中で最大値の1150トンを採用しております。その他水量として湯屋の使用量がございまして、これがその実績値です。これについては平均値で1日85トンという数値を採用しております。算出方法はこのとおりです。算出の結果が以下のとおりです。生活用水、これは235リットルに人口を掛けた数値です。あとその他すべて累計いたしまして1日・平均1万1300トンと最大給水量、日最大給水量が一人当たり1万4100トンという結果になっております。そのまとめたグラフがこれです。そして下諏訪町の場合は平成32年の目標年度で人口が2万4100人。給水量が1万4100トンという結果になっております。

内容については以上ですがこの数値については、今現時点での過去10年間の実績に基づいて推計した値です。実際、事業認可を既に取得してある事業計画がございまして、その事業計画が間違いだとか、今回の調査が正しいとか。そういう判断とは違いますのでその辺をよろしくお願いいたします。以上です。

浜委員

はい、ありがとうございました。

ただいま足早にご説明をいたしました。この資料につきましてはかなり膨大な資料をこの2カ月ぐらいの間に調査をしていただきました。利水ワーキングの意見といたしまして、この数値につきましては行政の政策というものをかなりシビアに見てる数字であるけれども、検討のひとつの目安としての数字には問題ないだろうと、こんなご意見もありました。この調査につきましては6河川8事業者を実施致しまして1300万円という調査費が掛かっております。ご報告を申し上げます。それから次に移りますが、資料の17ページをご覧ください。ここには水源の課題に対する対策の表がございまして、利水ワーキングといたしましては7項目にわたるひとつの水源の可能性を調査をしてみました。まず水源の対策方法といたしまして縦系列に書いてあります水源の浄化施設を設置する。地下水を検討する。そ

れから農業用水からの転換を検討する。多目的ダムを検討する。それから利水専用のダムを検討する。それから河道外貯留施設、いわゆるため池でございますがそのようなものができる用地がないだろうかということを検討する。それから142号線、新和田トンネルが開通時に出てきました湧水(ゆうすい)、これの可能性を検討する。この項目にわたって調査をしてきました。横系列にはいろんな工法の説明ですとか課題、それから経費、水道料への影響等について詳しく書いてありますが、時間の関係上一番右側のワーキンググループとしての報告結果をご説明申し上げますが、まず浄化施設の設置及び地下水についてでございます。地下水については後ほどご説明をいたします。現在の水質につきましては水道法の水質基準というものはクリアをされているわけでございますけれども、新規水源というものを求める場合、これ水道法の中では汚染されていない水というものを求めていくことが望ましいということがあるわけでございます。それから農業用水からの転換でございますが、過日農業利水者からもご意見をいただいております。農業用水からの転換というものは取水時期が限られることと、利水者間の調整に長期の時間を要するものと思われる、ということであります。たまたま岡谷市の利水者の方々、農業者の方々からご意見をいただいておりますのでここで発表させていただきませんが、岡谷市の上堰・下堰というものがございまして、これは約210年前に武井五平さんという方が自費でこれを建造なさったということでございます。これが上堰でございます。そしてこれが下堰でございます。これが砥川でございます。そして横河川はここに流れているわけでございます。しかし近くにこの横河川があるにもかかわらずこちらの遠い砥川からこのせぎを引っ張ってこなければならなかったということはやはりこの横河の水というものが昔からやはり枯渇状況であり、あるいはこの辺の湧水というものが大変少ない、そんな状況ではなかったかということが推測されているわけです。すなわち岡谷市というものは歴史的に水不足に悩ませ続けられてきたということが伺えるわけでございます。砥川水系より取水する場合はこれ昭和45年の12月に取り交わされております覚書というのがございます。そしてその中にはこの上堰・下堰の水利権というものを、この砥川をいじる場合にはこれを優先をするという覚書が取り交わされております。耕作面積につきましてはこれは40年前から比べますと岡谷全体の耕作面積というものは40年前を100といたしますと約今は40であろうと。すなわち60%くらいが耕作面積がなくなっているということも言われるということです。しかし、この上堰・下堰のこの地域におきましてはおおむね100対60だろうと。すなわち40%くらいは宅地化になっていると。耕作面積が少なくなっているということもございます。しかし、耕作面積も減ったわけですが都市化、あるいは道路のアスファルト化、あるいは側溝等の整備によりましてこのせぎに流れ込む水が昔よりは相当減っているということでありまして、さらに湖北トンネルの貫通によりまして、湖北トンネルがおそらくこの辺に通っているんでしょうかね。その貫通によりまして今までわき出ていましたわき水、湧水等がかなり減ってきていると。それからこの東俣の上流部。この辺の耕地の荒廃によりまして水量が減をしているというような原因によりせぎに流入する量は減少して現在でも水は足りない状況であると。片間町付近では、片間町っていうのはこの辺だと思いますが、片間町付近におきましては現在でも水番をしている状況であるということもおっしゃっておられました。3年前には中部電力にお願いを申し上げて発電を止めてもらってこのせぎに水を流してもらった。最近では平成2年、3年、6年、13年が特に水不足であったと。平成6年には耕作に障害があるほど水はなかったと。また冬場におきましてはこのせぎを使って生活用水や防火用水にしたいわけでございますけれども、この砥川の正常流量、これを保つために、この正常流量を保つためにせぎを止められてしまうので防火用水にも使えないと。こんな現状の報告をいただいた経過もあります。それでは17ページもう一回戻っていただきまして、多目的ダムにつきまして、

あるいは利水ダムにつきましては、利水単独ダムとした場合に、利水者の負担が大きくなるために国及び県の補助施策が必要であると思われまふ。これは予算的な問題についてでございますけれども、現状では多目的ダムの中にこの補助がついているという現状も認識をしていただきたいと思ひます。次に河道外貯留、いわゆるため池でございますけれども、これは現計画上の上水道の量37万トン貯留するため池というものは我々はワーキングで調べてみましたが地形的にはかなり難しいのではないかと報告でございます。続きまして新和田トンネルの湧水についてご説明を申し上げます。それでは新和田トンネルの水について最初にご説明をいたします。この新和田トンネルの湧水につきましては昭和53年にこのトンネルが開通をいたしました。砥川へこの53年から流れ込んでおります。水の帰属につきましては和田村と、それから道路公社で協定が結ばれております。これは昭和54年、開通の翌年でございますけれども、結ばれております。通常は和田村側へ1296トン・パー・デイリー(t/日)一日に1296トン。それから下諏訪側へは1万800トンの湧水がトンネルの勾配により自然流下をしております。和田村が水を必要とした場合にはポンプアップにより和田側にプラス2880トンの計4176トン流下させることとしております。従って下諏訪側へは7200トン流下すると、この7200トンでございます。流下するということでございます。トンネルの延長が1920メートルございまして、ここに町・村の境がございます。そしてこれがトンネルの分水界でございまして、このトンネルの延長の比例配分によってこの数値が決められてきています。町村界はここでございますが、しかし分水界がここでございますので1万800トンは常時今砥川に流れておりますが、その水の権利というもの、この町村界からこちら。すなわちこの間の2880トンというものは和田村分でございますよということでありまして、もし和田村で何かありました時にはこの水を返してくださいと。こういうことなんですね。実際このトンネルが貫通した時に男女倉沢という沢が和田側にございますが、その沢がかれたという経過がございまして、この辺の2880トンの論議になってきたわけでございます。上水道として取水する方法につきましては、まず一番目としてはトンネル湧水を河川から新たに取水する。すなわち今落っている水を河川、砥川のどこかで取水していくという方法。それからトンネルの湧水が河川に入る前にトンネルの坑口で取水する場合。この二つが考えられます。すなわち今この砥川に流入する前にここで取水をしてしまおうということでございます。

次にいきますか。まずケース1ということに触れてみたいと思ひますが、これは先ほど申し上げました、新たに河川から取水する。砥川に流入してから取水をするということにつきましては、これは許可水利権がございまして、河川法に基づき河川管理者の許可を得た水利権ということになります。また慣行水利権につきましては河川法制定以前から取水している。河川法の許可を受けたと見なされている水利権ということになるわけでございます。次お願いします。この図は砥川における水利者の状況でございます。砥川におきましては1カ所が発電。発電所、ここでございます。砥川発電所。それから17カ所の農業用水。これは慣行水利権が14、許可水利権が3でございます。これが農業用水等の取水、許可水利権をもっている方々でございます。ケース1の場合、砥川から取水する場合はこれらの取水に影響与えないことが前提でございます。先ほども申し上げましたとおり砥川をいじる場合にはこの水利権を優先するという覚書が取り交わされているわけでございます。ケース2。トンネルの坑口から直接採取する場合は河川法の適用は受けないということでございます。しかしながら、取水することによりまして砥川の流量が減るために既得水利権者との調整が必要であると、この水利権者の方々と協議をしていかなければ直接取することも問題があるだろうと。こういうことでございます。次お願いします。これは先ほど説明しました。次お願いします。砥川における必要な流量。ただいま申し上げましたように、

砥川というものを維持していくためにはどのようなことを考えていかなければならないかということでございます。これは正常流量という言葉がございます。正常流量というのは本来川の持つ、河川としての機能というものを1年間365日を通して維持していくために必要な流量ということになります。河川の適正な管理を行うために水道・発電・農業用水のためにですね、必要な水利流量とそれから水質や景観・動植物の生息地等の保全のための維持流量によって定められております。正常流量と維持流量でございます。河川より新たに取水する場合は河川にこれらの必要流量以上の流量が年間を通じて流れていることが条件になります。次お願いします。さて、それでは砥川の状況を昭和55年からのデータで見えます。ケース1の砥川から取水する場合は、砥川流域の現状といたしまして正常流量を満足していない状況があるわけでありまして。従ってこの正常流量を守っていくということになりますれば河川に落ちた水を取水していくというはかなり難しいのではないかなということがございます。この説明ですがこれは湧水流量、すなわち1万80トンのトンネルから砥川に流れ込んでいる流量をこの薄い青の色で表示をしてみました。そうしますと昭和53年に正常流量を割っている。それから62年、63年それから平成2年、3年それから6年もぎりぎり。こんなような状況でございます。この正常流量を維持するという非常にこの河川の機能を維持していくために重要なこれはラインでございますが、それを統計的に採ってみますとやはり割っていると。しかも、もしこの1万80トンがなければこの位置まできてしまうというような63年、2年、3年のデータ。これはひとつご理解をいただきたいと思えます。次。平成3年のデータを見えます。1年間、この平成3年1年間。1月から12月のこれがデータでございます。これが正常流量のラインでございますが、ここに少し上がっているわけですが、これはしらかきの時期でございます。それから3月からはワカサギの遡上が始まってくるということでありますから、2月あるいは3月、この辺で相当大きく湧水、割り込んでいるわけでございますので、この辺を一体どうするのか。ワカサギの遡上あるいはしらかきの時期の水の不足というようなことをどのように考えていくのかということもこれからの大きな課題になってくるのではないかと思います。

時間がございませんので、もう少しスピードをアップさせていただきます。

次にこれは岡谷市の水源の調査の図でございます。これは資料があるんですかね。資料はあるんですね、はい。これは水源調査をしたわけございまして、岡谷市におきましては40本の井戸を過去に掘った経緯がございます。40本の井戸を掘った経緯ございまして、そのうち今現在使われている水源はこの1番から21番の21本の井戸を使っております。それで、あとの19本につきましてはこれを水源の枯渇やあるいは水質の低下等によって廃止した井戸。あるいは調査をした井戸でございます。まず、強調しなくてはならないことは、一つは水源の枯渇の問題でございますが、この一番上にあります。山側でございますが、常現寺という水源がございます。この水源におきましては日量1000トン取れていたわけでございますけれども、今現状では水位低下をいたしまして350トンしか取れていない。あるいはここに一ノ瀬がございます。ここにつきましてはかなり深い井戸だというふうに聞いておりますが、ここでは200トンしか取れていない。それから南唐沢水源。ここも山側でございますが、ここも200トンしか取れていない。それから出早第2。出早第2、ここですね。この山側の井戸につきましては枯渇あるいはコスト、費用対効果の問題も含めながら深く掘っても多くの水量は望めない。山側から水を取ればいい水が出るのではないかというお話しであります。水質的には問題はございませんが、なかなか望むような水量が上がってこない、という状況でございます。さらに片間町水源、それから宗平寺・東堀・河原口水源等におきましては、それから川岸第2水源におきましては、今この5つの井戸

につきましては浄化施設、トリクロロエチレンの検出によりまして浄化施設をつけながら給水をしているという状況下でございます。それからこちらの諏訪湖側のこれ花岡地域でございますけれども、こちらにつきましても花岡水源というのがここでございます。この水源におきましては2500トン取れていたものが今現状では1800トンまで落ち込んでいると。まだ落ち込む可能性はあるというご説明もありました。次お願いします。この図は岡谷市全体の汚染の状況、この40本の井戸を参考にいたしまして、岡谷市の全体的なこの汚染の状況というものを図に示したものでございます。この赤い部分。これは規定以上のトリクロロエチレン。汚染が進んでいるところだというふうにご認識をいただければ結構です。それからこの黄色い部分ですね。この黄色い部分につきましては基準値内であるけれども汚染されている状況、というふうにお考えいただければ結構だと思いますが、井戸の位置を一つ一つプロット(plot:座標に従って点を定める、点を結んで曲線を書く)すればいいんですが、基本的にまあ井戸というものは、個人の井戸もでございます。いろんなプライバシーの問題もございますので、こうしたメッシュに分けて、岡谷市全体がトリクロロエチレンの影響を受けているのではないかと。いうふうにご推測される図でございます。次、お願いします。

図の説明は以上でございます。最後に我々の検討委員会としてのまとめでございますが、これは給水量の予測というものにつきましては、これは岡谷市・下諏訪町とも現在の計画よりも少ない予想になっております。この予想に対する評価及び水源対策につきましては、水道業者であります岡谷市及び下諏訪町の意見を部会において求めたいと思っております。先ほども部会長がおっしゃりましたように、この水道の責任者、これは地元の行政でございますから、県がああせいこうせいということは言えないわけでございます。あくまでも参考値として検討の材料にしていくということでございますので、行政の政策的な課題というもの、そういったものをどう加味していくかということがこれからの大きな論議になってくるのではないかとというふうに思います。そして、その責任を取っていくのは地元の行政ということになるわけでございます。節水についてでございますが、ワーキングの中でも節水の可能性というものに追究をして欲しいということもありました。今回の調査におきましては、給水量予測においては節水型便器の利用を前提としていること。それから、有効率。これ有効率というものはいわゆる水道管の漏水等がどのくらいあるのかということでございますが、この有効率につきましても90%以上の設定であること。また、生活用水量につきましては全国的に見ても平均的な量、これは一日、一人一日平均生活用で比較いたしますと全国平均が243リットルでございます。それに対して岡谷市は241リットル。下諏訪町については235リットルとなっていることから、特にこの節水のこの両市につきましては、節水という町民・市民の意識というものはかなり高いのではないかと数字が出ております。水源対策につきましては、これは汚染されている地下水以外に求めることが望ましいけれども、河川に新規水源を求めることに関係をして正常流量の確保が大きな課題となっていく。砥川におきましては正常流量が確保されていない状況でありまして、これは河川本来の姿を維持できない状態であるということとなりまして、今後部会においてこれをどうしていくかということをご議論していただくこととなります。いずれにいたしましても上水道や河川水利用の問題につきましては、地域住民・流域住民の生活に密着して関係してくる事項でございますので、部会において慎重な審議をいただいているところでございます。以上、ご説明を申し上げます。

宮澤部会長

はい、浜座長ありがとうございました。

今、浜座長の方からご説明をございましたが、ちょっと時間が延びましたんで45分まで再開させていただきたいと、45分から再開させていただきたいというふうに思います。ちょっと急な時間でございますけど、なるべく審議する時間、皆さんの意見をする時間をたくさん取りたいと思いますのでよろしく願いをいたします。それでは休憩とさせていただきます。

<休憩>

宮澤部会長

大変時間のない休憩で誠に申し訳ございませんでした。今、15分ほど遅れてスタートをさせていただいておりますので、終わりの時間を15分繰り延べさせていただいて12時45分を予定させていただきたいと思うところでございます。今日は各委員の皆さんからご回答をとということじゃなくて、利水関係者の皆さんのご意見を十分にお聞きしたいということでスタートしているわけでございますので、どうぞ、なるべく多くの皆さんに私の方では当てさしていただきたいとこんなふうに考えているところでございます。それぞれポイントは先ほどワーキングの浜座長の方からお話ございました。それぞれについてご意見をお話しさせていただきたいと思います。委員の方から特別なことがない限りお答えすることはさせないでいただいて、皆さん方のご意見をお聞きするというようお願いしたいと思います。また、総合治水案ができ上がった段階で再度公聴会を開きたいと思っておりますのでどうかその点のご配慮をお願いしたいと、こういうふうに思います。まず、方法でございますが挙手をしていただきまして、私はなるべく肩入れのないように場所でそれぞれ当てていきたいと思っております。住所それからお名前を明確に全部記入してオープンにするということで、どうぞ、お名前と住所をお話をいただきたいと思います。それではご意見をお伺いいたします。よろしく申し上げます。はい。それじゃ真ん中で今立ち上がった方。はい。

諏訪市 湖岸通り シオバラ氏

私は諏訪市湖岸通りに居住しておりますシオバラと申します。

(諏訪市ならやめてもらいていな)いや、それは諏訪市でもいいんじゃないですか。今日の議論が始まる前にですね一般論として参考までに申し上げたいと思います。それは中水道という考え方についてです。ご承知の方も多いと思いますけれども中水道というのは、上水道と下水道との間で、トイレとか散水・洗車などに飲料水以外の水にも使う場合に雨水を利用しようというそういう考え方のものです。大相撲の国技館では雨水を地下にためてトイレに利用しております。国技館だけではなく現在では大都市の新しいビルにはほとんど中水道が導入されると聞いております。急に家庭の施設に導入することは無理でございますが、これからは学校とか工場・デパート・病院・市役所など人の集まるところに中水道を導入すると節水に役立つと思います。条例をつくり新しく建設されるビルに義務づければ数十年後には広く普及することになるでしょう。諏訪地方にもこの考え方を導入しますと、将来水不足に見舞われることはないと思われまます。以上、参考までに申し上げました。

宮澤部会長

はい、今提案がございました。他にいかがですか。はい、あの紙を持って手を挙げている方。

岡谷市 ヤハタ氏

私は岡谷市民の一人でございます、先ほど地図に出ました11番の片間町水源のすぐわきに住んでいるヤハタと言います。どうぞよろしく申し上げます。

岡谷市あるいは岡谷市民が安全で安心して飲める水を求めるっていうことは切実な願いとしてぜひ砥川部会の委員の皆さんにはご理解をいただきたいというふうに思います。今現在が70%が地下水という岡谷市の水道水の現状を見ますと、汚染されているっていうことでございますが、私もかつては精密をやっておりましたので製品を洗浄するにトリクロロエチレンを使っておりました。私は零細企業でしたものですから、下諏訪の業者から一斗缶で2本か3本ぐらいつ買ってきては使って、また再生としてお返しするんですけども、一斗缶で買ってきて洗浄してまたお返しする時は3分の2くらいに減ってしまうんですね。っていうのは、トリクロロエチレンっていうのは揮発性が非常に高いものですから空気に触れるともうどんどんどんどんなくなってしまふっていうことで、さらに水と比較すると比重が重いものですから、例えば地上にまくと一瞬にして消えてなくなるものですからどっか行っちゃうような気がするんですけども、その蒸発する前に地下にこ流れ込んだトリクロロエチレンが今現在岡谷市の地下にあちこちにあるというふうに私は思っております。地下水の流れが今のままで静かにいるなら、いい子で、くぼんだところでこ静かにしているんでしょうけれども、しかしこれが何かあった時、大雨が降って地下水の流れが速くなったとか、あるいは、地震がきて震度3・4・5っていうような揺れがあった時には、今まで静かに地下にこ沈んでたトリクレンが必ず攪拌されて上にあがってきて飲料水と混ざって水道水に混ざるっていうことがもう十分考えられますので、そうすると、じゃあ今のその地下水で100%、例えば100年の大計として考えた時に保障されるかっていうと、私はどなたも保障できる人はいないと思うんです。そういうことから見ると表流水としてこ目で見て、監視でき、また対応できるという表流水のその確保が私は岡谷市民の一人として切実にこ皆さんにご理解いただいて、ぜひ、安心して目で見えて飲める水をぜひ皆さんにご理解いただいて確保していただきたい。そのことがこれからの私たちの子供、それから孫・ひ孫あるいは子孫っていうことで考えれば、今の地下水が永遠にこのまま使えるとは私は考えられませんので、ぜひ今の地下水に替わるいい水っていうことで、たまたま下諏訪の東俣川にダムをつくっていただいてそこから下諏訪町さんのご厚意によって岡谷市にただけるってものですから、私は本当期待をしてたんですけども、こいう事態になるとは思いもよらずにいたものですから、しかしどんな事態があろうとも岡谷市民のこれからの100年の大計の飲料水を考えた時に、ぜひ東俣のいい水を岡谷市に取水できるようなことでご検討いただき、こいうまとめをぜひ部会長さんに切にお願いをしたいというふうに思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

宮澤部会長

はい。他にいかがですか。はい、ネクタイの方。

岡谷市 堀ノ内 セキ氏

私は市内の堀ノ内1丁目というところに住んでおりますセキと申します。

何回かこの部会を傍聴させていただき感じたことを聞いていただきたく思っておりましたところ、本日このような席で機会をいただいたことに心から感謝を申し上げます。

まずはじめに20年余り前からダム計画をし検討に検討を重ねて県の事業として決定になり、岡谷市

も下諏訪町も同調してきているこの事業であり、さらに国でも認められているこの事業に対して何故に時間を費やして再論議をしなければならないか、きわめて疑問でございます。そこで岡谷市の水道水源の現況をみた時、ほとんどが地下水であることから現在3千トンもの水が減っているという事実を聞かされまして、この現実から井戸は将来まだまだ減ることが考えられます。汚染により使えなくなる既存の井戸。現在の技術と機械力でくみ上げることにより地下水が減少しているということ。実際に私が子どものころはあちこちに井戸がありましたし、また、清水といってわき水がありました。あれが今はなくなっていることから地下水は年々減っていくことがわかっていると思います。大変不安なことでございます。加えて地下土壌が汚染されていることにしても過去の企業活動のことであり、当時の企業の隆盛が経済を潤し生活を豊かにしてくれ、今の岡谷市があると思います。岡谷市は精密工業の町であり大きな企業から家内企業まで無数に存在していたことから、その汚染対策は並大抵なものではありません。不可能に近いものだと思います。過去においてこの塚間川がしかりです。紫色の水ある時は真っ赤な水、またある時はオレンジ色の水。こんな水が流れ、これは川だから見えたに過ぎません。地下水は見えません。この汚染物質もひと月やふた月で水脈に達するものではありません。数年から数十年を経て水脈に達するものだと聞かされております。以上のことから考えても、岡谷市の井戸水は汚染が年々進むと思われる。数十年後、子々孫々の時代にもし汚染飲料水で苦しむようなことがあれば、今のこの論議が歴史的汚点として年表に刻まれるのではないのでしょうか。人口が減っている、景気が悪い、だからこれ以上水は不要だと言われるが、水の確保は今現在の足元だけを考えるものではありません。長い将来を展望し考えるべきであり、確保できるときに機会を逸することなく確保すべきだと思います。幸い我が国はよい気象帯に恵まれ、梅雨前線・季節風によって自然の水を運んでくれます。これをすぐ表面を流して海に戻すのではなく、ダム等で貯水し十分に土に浸透させるとともに有効に使うことにより昔出ていたしみずがわき出したり、かれてきた温泉の湯量も増える期待が持てることと思います。また、料金が高くなるという人もありますが、だからといって水がいないということではございません。水が十分にあって町は成り立ち人々が安心して生活ができます。従って東俣川からの取水は絶対に必要であると私は考えます。子々孫々のことを考え、今私たちが残していかなければならない責務だと考えます。この水の確保は数学や算数ではありません。理屈抜きの社会学だと思います。終わりに委員の先生方、人生にとって最も重要である人体に安全な水の確保のために、この地域の実情を理解され、後生の人々に尊ばれるご決断を期待申し上げます。ありがとうございました。

宮澤部会長

はい。ありがとうございました。今度はちょっと女性の方からいかしていただきたいと思います。この列の一番後ろにいらっしゃる方。

岡谷市 加茂町 シノハラ氏

私は市内加茂町から参加させていただきました本当の一主婦です。

砥川部会の治水・利水検討をされております委員の皆様方には、私たち住民のため鋭意、ご努力いただき本当に深く感謝申し上げます。利水に対し深く関係する一市民として今回議論をされております砥川部会についてひと言お願いを申し上げたいと思います。

東洋のスイスとまで言われたほどの工業都市、岡谷市ですが、今この地下水がトリクロロエチレンにより汚染されてしまいました。この汚染された物質等がいつ元に戻るか不明であり、これから先どんな有

害物質が検出されるかわからないことを考えますととても不安です。また、この水源も長い年月によって老化し水量が減ってきているとも聞いております。岡谷市は水道用水の約8割以上が地下水に頼っているとも聞いております。大変不安です。一主婦として本当に不安です。生活のスタイルとともに水の使用量が増えていることも事実だと思います。起こってほしくない東海地震。もしものことを考えて地下水の流れが変わってしまった場合も不安です。私たちの命でもあります水。この水がないと生物は生きていけません。安全できれいな水を今確保しなければと痛切に感じております。東俣川からの取水は安全で安定した水確保のための絶好の機会です。この機会を逃がしてしまったら砥川の水確保は永久にないと思います。水道料金が高くなるからって、水は不要であるからっていっておられません。私たちの未来の子孫のためにもきれいな水を遺産として残してやりたいと願っております。子どもたちが将来の夢を抱き実現するためにもここでダム取水をし、水利権の確保をすることがぜひ必要だと考えております。

宮澤部会長

はい、まだ、まだ、途中ですか。

岡谷市 加茂町 シノハラ氏

すいません。有意義な話し合いがされて正しい決断がされますよう一主婦として願っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

宮澤部会長

あの、できたら名字だけでもお話いただけますか。

岡谷市 加茂町 シノハラ氏

すいません。加茂町から参加していただきましたシノハラと申します。よろしくお願いいたします。

宮澤部会長

はい、ありがとうございます。はい。次に真ん中の女性の方。はい。

下諏訪町 サクラダ氏

下諏訪町のサクラダと申します。私も一主婦です。主婦の立場から発言させていただきますけれども。1月30日に市民新聞の報道によりまして、下諏訪町はやっぱり少子化や不況の影響で水が使われる量が少なくなって収益が落ち込んだから、4月から水道料金が値上げするってことが報道されたわけですが、下諏訪は1トンあたり93円ぐらいでして、岡谷はまあ約120円ぐらい1トンあたりだと思いますけれども、岡谷より安いわけですが、ダムの水になりますと1トン176.90円、百...約70円ぐらいになる、177円ぐらいになるんですけども、下諏訪はもしダムができれば水が余っているにもかかわらずさっきの説明から受けましても4千トンぐらい以上余るってことなんですけど、余ってるにもかかわらず千トン取りますと1トン177円ですので、1日17万7千円払っていくわけですね。これで漏水分なんか引いて0.8で365日掛けますと年間5168万円ってものが、水を使っても使わなくても責任水量制っていうのをとるために湖北行政事務組合に5千万以上のお金を毎年、毎年、

毎年払い続けていくわけですよ。岡谷の場合は1日1万トンですので年間5億円にもなるわけですよ。それで、今岡谷の水道会計も27億も借金があるっていうのにどうすんのかなっていうようなことも思うわけですが、料金が高くなれば町民は節水に努めて、節水に努めるっていうのはいいことなんですけど、水道料金の面では悪循環をきたすんじゃないかってふうに思うわけです。水っていうのは生活の中の基本中の基本だものですから、安きゃあ安いほど本当にこしたことはないと思って、ますます少子化...、下諏訪は出生率1.7だそうですね、ますます減ってくと。ほんで年金でぎりぎり暮らししてる人たちの水道料の負担ってこともありますし、また失業率も過去最高だってことが今現時点ではあるわけですが、ダムによって水道料金が上がって、これで水がおいしい水とか安全な水になれば私も考え直してもいいんですけど、問題は全く逆なわけですし、先ほどから岡谷の方はトリクレン、トリクレンの問題で言うておりますけれども、今度ダムの水になりますと総トリハロメタンっていう問題が出てくるわけですよ。去年ですか、山形の鶴岡市の月山ダムができて、地下水とダムの水を混ぜて配られてるとこなんですけれども、それによりますと原水に対して配られる上水で発がん性が認められてるんですけど、四つの物質からなる総トリハロメタンが10倍に増えてるわけですよ。そういうのを私たち下諏訪町民は全員飲まなきゃいけないわけなんです。それで、東俣のきれいな水を岡谷市いくわけではなくって、そういうダムの水がいくんだってことを、岡谷市民の皆さんは承知してもらってるんだろうとは思いますが、十分わかっていただきたいってふうに思うわけです。ダムをつくる場所っていうのは見ていただいた方も多いと思うんですけど、つくる場所の上流に中電がありまして、水を取っていて水量が非常に少ないとこなんです。ダムつくってもたまるのにかなり時間が掛かって腐って問題もありますし、水が腐って問題もありますし、それでたまるときには大水の時にドーンとたまってくるってことで、流木とか落ち葉とか砂とか土砂とかダム湖の中へたまってくんだと思いますけども、通常の水量は本当に少ないとこへダムがつくられてくってことで、下諏訪はその水を結局流れ水だもんですから、ポリ塩化アルミニウムっていう凝集剤も使うことがかなり多くなってその残留の問題も出てくるわけです。決して...

宮澤部会長

そろそろまとめて下さい。

下諏訪町 サクラダ氏

わかりました。決してきれいな水じゃないってことを言いまして、他にもちょっと下諏訪も、ごめんなさい。岡谷市も財政的にも安全の上でもこれから自分のとこの水は自分のところで確保するっていうことが本当は一番いいと思いますので、その努力を本当にしていただいて、もしそれでもどうしても足りなければ、ダムじゃない下諏訪町のきれいな水を、下諏訪余ってるもんですから、お分けする方法を考えればいいと思うわけです。下諏訪の東俣のおいしい安全な水っていうブランドはもうお金に換算すれば目に見えないほどの財産なと思います。下諏訪は観光の町でもありますので、命の水と財産守るために部会長さんにも本当にダムに頼らない治水・利水で「『脱ダム』宣言」に則った砥川宣言をぜひ出していただくように強く要望いたします。以上です。

宮澤部会長

はい、次の方。もう一人くらい女性お願いしたい。はい、じゃあそちらの一番前の方。はい。

下諏訪町 フジモリ氏

下諏訪町のフジモリと申します。

今、私はずっと主婦の立場もありますし、東俣のおいしい水という点を強調したいと思うんです。今の方も言いましたけれども、私の娘も都会に出たときに行きましたら、ペットボトルで水を買ってるっていうのが私わからなかったんですよね。なんで水を買って飲むのかと。下諏訪は蛇口をひねればおいしい水が出る。とってもおいしい天下一品の東俣の水を飲めたということが、都会へ行くっていうことで、今回岡谷のトリクロロエチレンの話もありますけれども、非常においしいこの東俣の水を絶対後生に残したいっていうのが強く要望です。それから、一番私は今日のお話も聞いて疑問というか、これで本当にそうなのかなと思うんですが、ダムをつくるという計画をした時のことをまず考えていかなきゃいけないと思うんですよ。ダム計画をした時には岡谷市が給水人口が6万2千いくつ、下諏訪が2万7800の時に1千トン足りない、1万トン足りないという、ことからダムから取水をしなきゃいけないって計画があったんですよね。そういう計画。計画水量もそのとおりです。先ほどの発表の中では、何か人口も横ばい、工業もこれから希望的観測が増えていく。岡谷なんかは大学誘致なんかも入れられながら増える希望的な観測が出ていますけれども、まず私たちが考えていくには最初の計画をした時に下諏訪なら2万7800人になった時に1千トン足りないんだ。でも現在は2万4千をきっています。先ほどの今回の調査というところでも2万4100人っていうことですので、実際に1千トンはないという現状がはっきりしています。先ほどの方もおっしゃってましたように、水をもっと下諏訪は使ってもらわないと水道料金からのお金が入ってこないもんだから値上げをせざるを得ないという状況の中で、1千トンを取るために、岡谷に1万トン分けるためにダムをつくるという状況を、この原点からの考えていく必要があると思います。それと、岡谷のトリクロロエチレンの問題は、実際に計画がされた時にはあったのかどうか。ここ5、6年の時に、にわかにトリクロロエチレン・トリクロロエチレンって話が持ち上がってきました。今日は委員の皆さん中にも岡谷の市長さんがおりますので行政の責任者としてそのトリクロロエチレンをみんなに飲ましてるわけではないんですよね。高度の処理装置をつかった浄化装置によって安全が確保された水を市民に配っているわけですので、その点も不安だ、安心じゃないというようなことが全面的に出されるということが、今はなんか私は...こい...故意ではない、それは不安なところは不安ですけども、行政として安全な水を市民に配っているということは間違いのないことですので、その点は安心して行政にお任せをいただくということが大事だと思います。何はともあれ砥川からのダムからの取水ということではなくて、その他に岡谷に本当に水が足りなくなれば、先ほどの和田峠の湧水の問題もね、本当に検討できないかどうかということも私はぜひ提起をしたいと思います。あれだけの水があるわけですので、ぜひ、検討していただいて岡谷には分けていただくっていうことも検討していただいて、ぜひ、ダムに頼らない利水を考えていくべきだと思います。以上です。

宮澤部会長

はい、他に。じゃその一番前での眼鏡の、眼鏡なんていって恐縮でございますが、眼鏡をかけられた方。

岡谷市 オグチトオル氏

岡谷市のオグチトオルと申します。

私は約1年間、横河川の上流で毎日一回川の水深を測りそれをグラフに採ってきました。時には沢をたどり鉢伏の頂上まで水源を探りました。1カ月ぐらいの晴天続きや1月・2月の厳冬期の全然雨の降らない時でも水深50センチの計測地点で原水はわずか2センチから4センチで、川の流れは変わることもなくとうとうと流れておる。森林は休むこともなく水を吐けさせていました。平成11年6月30日の午後の日、いつもは水のない枝沢がものすごい濁流となり大きなカラマツを押し流し、赤土をこねた濁流が本流へ押し込んでいた。数日後、同じ沢へ行くと水は一滴も流れておらず、沢底は3メートルもえぐれ、それが土石流となっていたのです。それにひきかえ1年じゅう水の流れている沢は同じ日に調べると沢底は変わることもなく、水量はいつもよりも多いがもう濁りもなく流れていた。この違いはきっと沢の上流の森林の整備の良しあしが現れたと思う。よく整備された山林は1時間150ミリもの降雨をためおくことができるという。では、ダム の 予定地より上流の山林面積に150ミリをかけてみると、その水量はダムなどなくともよい計算になるでしょう。平成11年、上流に立っていた横河川の案内板には、岡谷市民の飲み水の63%を横河川より取水していると明記されていたが、現在、市の上水道の概要書には16.6%とある。その大きな違いは日量2万トンにもなります。毎日水深を測りながら川の流れを見ていて、現在の日量5800トンぐらいの取水は目で見える限りでは何も変わりもせず流れており、この横河川がある限り何もダムの水に頼ることはないと思った。ちなみに、利根川流域の年間降雨量は94.1億トン。ダムにたまる水は3.2億トン。これに対して山林では25.3億トン。保水量はダムの8倍以上です。今まで高水工事は元来上流での治山・治水を軽視。都市部が上流の森林を重視しないために土石流のもとをつくり水害の現況となっています。日本の水田の1ヘクタールの水利権は一日約200トン。岡谷市の場合、年々水田の耕作面積は減少をしてきており、水田への利水量が減少している分、水道水への利水量の増加を当事者と行政はよく話し合ってみたらどうですか。それに、水の循環を考え道路の側溝の底を何カ所かぬき雨水が浸透するようにしたり、屋根よりの雨水を200リットルぐらいのタンクに受ければ、もし5千戸の住宅に設置すれば1回の降雨で1万トンの水を得られます。現在、つくば市のニュータウンの建て売り住宅で、雨水タンクが各戸に1個取り付けられています。これは地区の婦人たちの発案によるものです。同じニュータウンで一辺が100メートル・深さ30メートルぐらいの大きな集水池が4カ所掘られているが、これはアカマツ林の自然林を開発したために起きる洪水の防止用につくられたもので、自然破壊がいかに高くつくか物語っています。横河川で計測している時、雨が降り出して2時間後にはもう2センチ増水したことや、3日間も降ったりやんだりしているのに、流れには何の増減のなかったこと。自然を測るには理屈どおりではないと思った。これだけダム問題が言われている時、当然市では横河川に水位観測テレメーターを整備しておるでしょうから表示された経過を公開してもらいたい。私はダムよりは横河川の森林を今より以上に整備をすれば岡谷は十分に水は足りると確信するのです。以上です。

宮澤部会長

はい、じゃあ今度真ん中の、その真ん中の男性。方。

岡谷市 長地 ウエノ氏

岡谷市の長地に住んでおりますウエノと申します。同時に、市議員も務めておりますのでひと言申し上げたいと思います。

水というものはですね、やはり確かに環境を写し、言葉を代えるならば、その時代の人間像というもの

をこう如実に写すものかなっということも思うわけです。その中で昨今言われております、岡谷市のこの地下水がですね、これほど汚染されているということを一市民としましても非常に悲しく思わざるを得ないわけです。岡谷市というのは工業立市でありまして、数十年来非常に工業で発展も遂げてきておりますけれども、やはり反面、工業の功罪と言いますか、罪の方で大分この環境を汚してきているということも、この地下水を見るにしても事実なのかなっということも思います。そんな中で先ほどから岡谷市の利水っていうんですかね、水道の状況を様々な方々から報告がありますが、横河川という表流水に最大限2割しか今頼れないと。今、まあもっと横河には水があるっていうお話もありましたけども、私は決してもう水はないというふうに思います。横河川の最低維持水量を維持しながら現在の小井川上水道をですね取水する2割という範囲が最大限であろうかなっということも思います。従ってあと8割を今までの岡谷市の水道行政では地下水に頼らざるを得なかったと。必要な水量を確保するためにどうしようもなくこの地下水に頼ってきたというのが実情であろうと思います。そんな中で当然行政というのは、リスクマネジメントが大きく望まれてるわけでありまして、複数の水源を確保するということはもちろんこれは重要なことだと思います。加えて安全な原水を確保するということはもちろんさらなるリスクマネジメントとして必要なことだというふうに考えます。ちょっと話を変えますけれども、この間東京の知人が来まして、長野県は知事も替わり「『脱ダム』宣言」が出て大変だなという話の中で、最終的には諏訪湖の水を飲んだらどうだい。っていうような話をされました。ああなるほどと思いましたけども、しかし、天竜川を経ないですね、諏訪の水を飲むということを実際に私たち今現在できるでしょうか。少なくとも行政でいくら浄化しますからと言ってもこの諏訪湖の水を飲ますようなことはできない。つまり、私が言いたいことはやはり行政における上水道の確保ということはですね非常に重要な責任を持っていますし、また、どんな水でもいいというようなそういうわけにはいかないということも申し上げたいわけでありまして。これ以上井戸を掘ってですね地下水源の枯渇等の問題もありますから、岡谷市の場合にはもう私は無理ではないかなと思います。そんな場合ですねやはり先ほどの発表にもありましたけども、歴史が示すとおり岡谷市が水を求めてくのは東俣川しかないのではないかなあというふうに思います。和田トンネルの問題も出てますけども、今現在そのトンネルの側溝を流れてきている水をですね上水にするということは、私はできないんじゃないかなと思います。そんな中で水というのは確かに有限な資源ではありますが、やはりためるといいますね技術。これを上手に使いながら私たち岡谷市民も共存していかななくてはいけないのではないかなっということも思います。そんな中で現在多目的ダムという一つのものでですね事業が進もうとしてるわけですので、やはり私は安全な水の確保ができるのは今現在の岡谷市の状況ではですね、やはり表流水でありそれは東俣川の水であり、取水の方法はやはり水利権等々様々な問題がある中で、やはりダムという方法以外考えられないのではないかなっというふうに思います。水というのは先ほどからも出ておりますけども、生命を維持していくための最低限のものであり、またこれからの都市の発展のもとになる非常に重要な部分であります。10年、20年という短期的な問題ではなくてですね、やはり100年、200年という長期的な展望に立って今現在の行政は判断せざるを得ないと思いますし、また、当然理解ある市民というものはそういった方法を支持しているというふうに私は思います。以上です。

宮澤部会長

はい、今度はその真ん中のネクタイされた方。はい。

下諏訪町 町屋敷 コイケ氏

下諏訪の町屋敷に住んでおりますコイケでございます。私、砥川部会の部員に立候補しまして見事落とされまして、前回は治水の時に落とされたわけで、宮澤部会長に大分嫌われているんじゃないかなあと思いながら参加をしたわけですが、ありがとうございます。

私、少し経過の問題でお話をさせていただきたいというふうに思うんですけども、もともとこの下諏訪のダムというのは治水ダムから始まったということは明瞭な事実だというふうに思います。先ほど利水ワーキングの大変な資料が出されたわけですが、この時点での大きな課題というのは、やはりその当時、新たに利水として参加するのについて、下諏訪も岡谷も将来の人口の問題、工業の水の需要の問題等が大きな課題となって利水に参加をしたという経過をたどっていることはご承知だと思いますが、その時点の経過と今日の基本的な水事情の問題では違いが出ておりますけれども、やはり今日の経済の情勢を考えると、もう水の必要性というのは大きく需要の面から失われているということは明らかだと思います。しかし、行政というのはいったん決めたらなかなかこれをやめないと言うのが事実の経過だというふうにも思いますけれども、しかし私は、人口の減少の問題や工業の衰退の問題がこれからさらにある程度上がるとしても、今の水の状況で十分足りるのではないかというのが、私の先ほどの資料からも言えるところだというふうに思います。岡谷の問題はちょっとはずしまして、下諏訪のことについて申し上げますと、下諏訪はもともと千トンの水の取水というのは私は全く根拠がないというふうに思うんです。岡谷のことは別にして。なぜならば、昭和62年、先ほどこれからの人口の増だとか工業の問題で5千トンの水が必要だというふうに当時の町長は手を挙げたわけですね。しかしその後、この5千トンの水から、いらないと、この5千トンの水は。なぜいらないかと言うと、当時の有収率が66%だったわけですが、どうも聞いてみるとそれ以下だったようであります。水量計が明確でなかったということもあって。これを78%までにすれば5千トンの水は取れるんだと。要するに漏水を防げば十分5千トン確保できる。だからリスクの多いダムからの取水はやめたというふうに言ったわけですね。同時にそれでも不十分な場合は、当時、和田の湧水の問題、トンネルの問題があって、これは和田さんとも話をしたようでありますし、県ともいろいろな形で検討をされた経過もあります。そういう中で、もしそれでも足りなかったら和田の湧水を利用すればいいということが、その中での議会への発言だったというふうにも記憶をしているところであります。ところがその後2年後に、これは平成2年で当時の町長が、県からかなり説得を受けたのではないかと思うんですけども、岡谷市等の状況を見ながら高度の政治的な判断で最終的な結論を出したと言って、5千トンではなくて今度は千トンというふうに言ったわけですね。一体どういう根拠がそこに千トンがあったかということ、私は市民もわからないわけです。高度の政治的判断というのは、政治家の間では使われてもいますし、それは通用するかもしれません。しかし住民の中に高度な政治的判断で取水したり取水しなんだりということはまああり得ないことであります。問題は大事な水、必要な水が確保されればいい。こういうことであればいいかというふうに思います。そういう点では全く根拠のない千トンと言わざるを得ないわけです。しかし近年、その当時あまり岡谷の市長さんも騒がなかったし市民も言わなかったトリクロロエチレンの問題。岡谷の地下水の水位の低下や今のトリクロロエチレンによる汚染の問題がありました。一体岡谷市さんは、そのことについてどのような検討やどういう対応をしてきたのか。具体的な対応があれば本当にお聞かせ願いたいというふうに思うんですが、これは結果の問題かもしれません。しかしこれからは汚染の問題をどう対応するかは、もちろん浄化槽の問題を含めて考えていただきたいと思いますし、その場合にダムからの取水でなければ岡谷は水はいらぬのか。もっと新しい水源を考えるべきではない

かと思えますし、この20年間の中でもっと考えればもっと新しい方法ができたのではないかというふうに思います。その点では、先ほどの和田のトンネルの湧水の問題は大きな私は課題だと思います。課題と言いますか、あの当時の計算でも約5億5千万くらいあそこから引くと掛かるというふうに言って、ダムからの取水だと約15億数千万円が掛かるというふうな計算がされて、その時でも必要だったと思うんですね。しかしその時点で...

宮澤部会長

そろそろまとめてください。

下諏訪町 町屋敷 コイケ氏

はい、ありがとうございます。私はそのことが一つと、それからもう一つは3千トンぐらいは下諏訪、今余っているというふうに思います。いろいろありますけれども、この水はおいしい水です。岡谷市に長地の側からでも、長地といいますか、東山田からでも、それから赤砂崎の方からでも、給水地域を拡大をして送っていただければ、それによって下諏訪はおそらく今の料金で年間1億3千万ぐらい下諏訪にお金が入るということになります。水道料金のことも含めて、そんな点も含めたご検討をいただきたいということをお願いをして終わります。ありがとうございました。

宮澤部会長

はい。それじゃ、今度はこちらの方。はい、その...ええ。(下諏訪町 ヤマダ氏 私は...) ちょっと待って、マイクを動かしますから...はい。

下諏訪町 長地 ヤマダ氏

私は長地の上堰と大堰の水利権者です。ヤマダと申します。

先ほど、経過やらいろいろと委員の方からご説明いただきましたけれども、何か、ダムから水を取らなければもう八方ふさがりだというように私は理解しましたけれども、実は先ほどポトルの話が出ました。ポトル1本、まあガソリンの値段と同じですね。これがですね平然と飲まれるようになったちゅうことは本当に私は情けなく、この諏訪盆地に住む一員としてですね本当に情けなく思っておりますけれども、そもそもですね、この諏訪を見渡した時に周りは全部山、森林ですね。この盆地でね水がないちゅうって騒いでいるのは岡谷だけなんですよね。それも田中県政になって、「脱ダム」ということが浮かび上がった途端にですね、汚染されちゃったということで急きょ大騒ぎ شدしたと。一体行政は何をしたかと私はもう腹立たしいやら、まあそうかって苦言を通したところでいまさら仕方がないですから、前向きに進んでいただきたいと思っておりますけれども。農業用水、先ほど片間町でですね、平成3年だったか6年でしたか、当番をたってですね水番をしたというようなお話がありますけれども私ちょっと疑問に思うんですよ。ということは、私は子どものころはですね、上堰にはいつも水浴びにですね、そのまんまもう裸になって飛び込んで水泳をしたもんです。つつみもなにもしなくて。そのくらいとうとうとですね上堰に流れてたわけですよ。もうそして3分も入っていると冷たくてですね飛び上がって、それから日なた干したという経験を持っています。今、お墓参りにいってですね、私の墓地の裏が上堰ですから、見ると以前の半分くらいしか流れてませんね。ですから、もともと流していないわけですよ。ですからおそらく砥川、この下流、富士見橋以下へいくとですね、もうほとんど常時水が流れていると。昔は、

私もあそこは通っていますけれども、ほとんど湯水時にはですねほとんど流れていなんだと。それでも下流の方はまあ仕方ないわと言ってますけど、今ワカサギだうんぬんなんつって変なこと言ってますけれども、ワカサギの遡上する時はですね冬期間の水のいらぬ時なんですよ。ですからその時にね支障が出るっっちゃうことはおそくないと思いますし、まあ、言うなれば、上堰の水をですね現在ある程度取ってもいいということをもう十何年前にですね、もう皆さん、下流の大堰、それからゴヘイセギともうみんな了承しているわけですから、そこいらも大いに検討していただくということが第1点。それから、流域、この川を流れてる沿岸ですね、これ私から言うと、この開発ですね。まかり間違えばですね不法投棄のようなことがね、平然となされていると。それがで行政当局が黙ってもうみているというような状態でして、私も昔、岡谷市の長地の学有林っっちゃうあったんですよ。それが下諏訪の赤浜という入り口なんです、そこへひょいって行った時にですね、その入り口ん時に、まず砥川の土手へもっていったものすごい産業廃棄物をですね投げ込んでるところを見ましたけれども、まあびっくりしちゃってですね、こういったものが大雨の度にですねそれが全部流れてしまうと。いってもう下流へどんどんどん流れていくと。もう全く人為的に汚染されているというのが現状だと思います。それから、そういったものをもう徹底的に監視するという。それから下流に至るまでですね、きれいな水が流れていくというようなことを、ひとつ行政としてですね監視していただきたいと思います。それから第2点にですね、申し上げたいことは、先ほど言ったように四方をもう山に囲まれてますから、諏訪はひとつ、みんな合併してもね20万そこそこです。これをですねもう基本にして、それからこの給水体系もですね、この20万都市ということで大きな観点から見て、一人岡谷市でなく、もうみんながいいというようなことで、ひとつ...このダムも決して悪いとは言いません。もう最悪の場合には仕方ないですけども、もう四方山に囲まれてどっからも水がね流れ込んでる状態ですから、おそらくこれが、もう諏訪圏内からしてみても足りないということはあってはならないことだと私は確信してます。その意味からもですね、

宮澤部会長

そろそろまとめてください。

下諏訪町 長地 ヤマダ氏

ええ。対極的にひとつねご検討いただいて、最もいい自然な状態で水を流していただくとういうことと。山は先ほどもおっしゃった保水力を高め、それを大ダムに仕立て上げてください。以上です。

宮澤部会長

はい、じゃあ、今度は真ん中の方。あの...ええ、その方。すいません。マイクをどうぞ。

岡谷市 マスザワケンジロウ氏

私は岡谷市の住人で、宗平寺公園にある浄化装置のあるところの近くに住んでおるマスザワケンジロウと申します。浄化装置で浄化された水を毎日飲んでいますが、さして気になりません。心配すれば心配になるかなあとと思いますが、それで私は全然心配しなくて毎日その水をおいしく飲んでます。さて冒頭、非常に詳細な資料を提示していただきましてありがとうございました。あれ立派な資料だと思います。その中でちょっと一つ気になることがあります。正常流量を維持しなければいけないという

ことが非常に強調されたようでございますけれどもね、いまだかつて正常流量を維持するためにダムをつくったということは、私寡聞にして聞いておりません。これ一つだけ今日の感想として申し上げておきます。

さて、この資料によりますとですね、今岡谷市は1万トン、下諏訪は1千トン、合計1万1千トンを新しいダムから取水する計画が出ておりますけれども、先ほどの資料によりますと、1万2千百トン、1万2千百トン余るということでございますから、岡谷と下諏訪をひっくめても下諏訪ダムから取水する必要性は全くないと。従って私はまず結論として、下諏訪ダムから日量、岡谷市の場合ですから、1万トンの取水をする必要はないから、これを白紙に戻していただきたいと、まずこれが一番の眼目があります。その理由は逐次申し上げますが、先ほど下諏訪の女性の方から話がありましたように、4月から下諏訪は、下諏訪はですね水道料金を8.5%上げると。その理由は水の使用量が減ったと、こういうことであります。全く同じようなことが岡谷市にも言えると思います。今岡谷市には岡谷市の飲み水を考える会という国ならNGOのような組織がございまして、その出された資料と、先ほど開示されました詳細な資料とは、今詳細な内容を説明する時間がありませんけれど、整合性があります。これだけははっきり申し上げておきます。従って水は新たに下諏訪ダムから取ることはない。一つは今水量が、使用水量が非常に減ってるということ、これが第1点。第2点はダムの水はまずいと、こういうことですね。今、諏訪湖に流れ込む水が釜口の水門から出るまでに、どのくらい平均滞留しているかと、長野県の土木部で調べた資料がございまして、39日間諏訪湖に停滞をしてから釜口の水門に出ると。ダムの水はそんなに長いこと滞留しないでしょうけれど、これはやっぱりよんだ水になるということと、さらに先ほど下諏訪のご婦人の方が非常に詳細な、何か有機化合物が出て汚染されるという話をしましたが、全くその通り我々はダムのまずい水を飲む必要はないと思います。第3にダムの水は非常に高くつくということでございますね。20年前に240億という予算が計上されましたが現在それから20年経ってます。それから、地盤、地質的に問題があってですね、相当な補強工事をしなければならないと、こういう話が部会でいろいろ検討されておりますね。このためにはそうとうな金が掛かるだろうと私は思います。それから、第3番目にですね、高い水が、水が高くつくという理由の第3番目はですね、これは日本全国どこのダムでも当初予算から40%ないし50%ぐらいの増額になっておるといふ経験的な事実であります。今のようなこの20年前のダム計画。それから非常に地質上不具合があって補強工事をしなきゃいけないと、いうことと考へ併せますと、これは240億で到底済まないだろう。350億ないし400億円くらい掛かるんじゃないかと、私は素人考へに考へてます。それは...

宮澤部会長

そろそろ時間でございますのでまとめてください。

岡谷市 マスザワケンジロウ氏

はい。そういうようなことで、ダムの水は非常に高くつく。以上から砥川のダムですね、砥川ダムの取水については白紙に戻していただきたいということをここで訴えたいと思います。しかし、(宮澤部会長 あの)先ほどから申し上げているように、もうちょっと、もう1分間ぐらいですね...

宮澤部会長

いや、それはそういう申し合わせになっておりますので、論が終わりましたらそこで止めてください。

岡谷市 マスザワケンジロウ氏

あと、岡谷の行政はですね、いや...なぜそんなに私のあれをやめるか、やめさせようとしてるのかな。いや、まあ、しかし、早く終わってる人もあるから...

宮澤部会長

申し訳ございません、私ども...

岡谷市 マスザワケンジロウ氏

はい、わかりました。(宮澤部会長 ...そこをお願いいたします)今の言葉を強く申し上げまして私の説明を終わります。

宮澤部会長

はい。1時間が経過を致しました。皆様のご意見それぞれあると思います。どうも同じ意見がまとまってきていると思います。私の当て方ですが、あまり知らない人ばかりなものですから、あっ、中には前回発言された方もおられるなっていうことわかりまして、そういう人たちはちょっと後にしていただくかなと思って、なるべく民主的に今日は利水のお話をさせていただきたいとこういうこととなっております。この次、総合治水組み立てた段階で、また、意見を上げる機会がございますので、今日は利水の意見、大体まとまっております。その中でちょっと2、3、利水の方の座長の方から、中休みで切って、特にワーキングのところですね、先ほど座長の方から県民の税金であります1300万、このために使わせていただいて検討した結果でございます。ですからこの結果はそれなりきの冷静な判断に基づいて検討委員会が出した資料でございます。ですので、どうかそのところも飲み込みながらご発言をお願いしたいと思います。今のところで、特に利水の座長の方から申し上げることがございましたらお話いただいて、と思います。はい、はい。短い時間をお願いいたします。はい、ええ、いいですか。ないそうでございますので。

それじゃあ、続けて論議に入らせていただきます。それじゃあ、今度はここのグループでいきましょうか。はい、じゃあ今のその眼鏡の方。

岡谷市 山手 タケイミツヒロ氏

私、山手2丁目、岡谷市山手2丁目のタケイミツヒロと申します。利水の関係で意見を言わしていただきますけども、まあ岡谷の場合水道が多くて、非常にその水道の汚染の問題なんかの報告もあるようなんですが、これは当然、それ今まで市の努力によってばっ気装置を付けたり、それだけの投資をして、まあ供給をされているという状態が今続いているわけです。

それで、将来的に水の利用量がものすごく増えてとか何とかという、どうも先ほどの統計を見た関係でもですね、この現状をいかに水を汚さないようにして、この今岡谷の特質であるこのくみ上げた井戸についていい水を求めていくかという方法にいくべきだと私は考えております。特にばっ気装置をつけてそれをやめてしまうとですね、せっかくその流れというものをまたおかしくなるようなこともあるし、ごく私は今の現状の補修派なんですけど、先ほどの横河山の報告もありました。扇状地でございます。この岡谷の地区はほとんど周りに総郷という山があったり横河山という山があったり、非常にまじ

めに皆さんが森林の管理をされております。そこへしみ込んだ何年かの水が我々はそれを使わせてもらっているという状況にあるわけですね。そういう状態で今岡谷の市民はその山を守りその水を守っていくということにやっぱ徹するべきだと思います。これで流量、中にたまる水の量ですね。地下水の水の量というものが減ってるというような話もありますけれども、これは確か田んぼが減ったりいろいろして側溝ができたということがあります。これはぜひ市もですねダムから水を引いてくるというような金のかけ方でなくて、今の水の地下浸透ということは、例えば昨日のテレビで信大の教授なんか言っていたんですが、田んぼの中へ水をためているとですね、その浸透してくる量というのはものすごい量らしいですね。下に粘土質があってなかなか下へしみないというようなことがあります。この休耕田の水をためておく、可能なところはなるべく地下へ浸透するような方策をこれは当然地下水を利用してる市としては、それを方策を持っていくべきだと思います。そしてあれですね、どうしても水量が確保できない部分については、これは当然山側のいいところへ井戸を掘るとかそういう探索もですね調査費としてやっぱもっていく。それはダムから引いてくる費用のところでもそんなことまで手が回らないというような考えでなくて、今の水をどうしてきれいに保ち、それで確保していくかという方に考えを変えてもらいたいと思います。そうでないとですね、先ほどからいろいろ指摘されるようなダムにためたってダムの水はきれいじゃないわけですよ。これは問題が起こってる。ほれでダムというものも必ず次の問題が起こってるということで「『脱ダム』宣言」も出てるわけですから、岡谷は岡谷で今まで非常に横河山の百名水の流れてくる源があるその下にいる市民です。そして周りに湊の山にしても総郷の山にしても森林に恵まれております。そういうところの水が必ず岡谷に降ってるわけですから、それをいかに確保できるかという考えに立ってもらいたい。私はそう思っています。以上です。

宮澤部会長

はい。他に。今度はその。

岡谷市 本町 モリ

本町のモリといいます。

私も岡谷市民として今はきちっときれいな水が私たちに供給されてるということを感じてますし、これが安定的に将来も続くであろう、続けて欲しいということをお願いです。まず今日いただきました資料ですけれども、給水予測のところで私は非常に気に掛かることが1点あります。もともとこのダムから1万トン岡谷が水を買いますよって言ったのは、西山開発ですね人口増になるということがダムから水をもらうということの根拠であったと思います。今日の資料によりますとべき曲線とかいろいろあるわけですが人口増の要因として4300人増えると。そのうち大学誘致がですね、で2000人増えるっていうふうな資料なんですね、これは大学誘致ってというのは市長の方針かもしれないけれども、西山開発をですねやろうと言った時のですね市長の方針と同じことであってですね、まだこれが実現するかどうか分からない。こういうものをですね予測に入れるってというのは私は全く根拠に欠けるもんだというふうに思います。だから誘致がなかったらどうなるかという予測もぜひしていただきたい。いうふうに給水量に関しては思います。2番目にですね今ダムの必要性が水源枯渇とですね汚染っていうことに最近絞られてきたように思います。まずですね、水源枯渇ということと言いますと、もちろん環境問題ってというのは今世界的な問題ですねこれは非常に重視しなければならない問題ですが、例えば石油だとかですねそういうものに比べてですねこの山に恵まれ諏訪湖をひかえてる

岡谷市がですね水がまったくなくなるなんていうことは私は考えられない、ていうことです。じゃあ地下水に頼っててですね水位が下がってるというふうな問題についてですね、どういうふうにすればいいかっていうことを私たちは知恵を出し合うべきだ。例えば全水量のですね20%近くをですね工業用水として使われてます。先ほど一番最初塩原さんがおっしゃいましたけども、水のリサイクルを考えるということも重要なことだと思います。諏訪湖の水を飲む必要がある。こんな乱暴なのは私も諏訪湖の水は飲みたくありません。だけど、工業用水にですね飲料水としてこれを利用することは、もし本当に他の水がなくなってしまうのであればこれを利用するというのも一つの方策だというふうに私は思います。現に岡谷市は今テクノプラザという計画を持っておられますが、ここの設備でですね節水のために水のリサイクルということを考えておられるんでしょうか。例えば市庁舎でですね水を、雨水を利用したりリサイクルをした場合どうなるんかということもですね十分検討していただきたい、いうふうに思います。2番目は汚染の問題です。これはですね、やはり、一岡谷のみの問題でなくてですね、日本的に起こってる問題です。だから人間はですね本来自然と共生しなければならないにもかかわらず、思いのままにですね自然を乱暴に破壊してきたという結果だというふうに思います。だから横河水源がですね、をやっぱもっと大事にすべきだし、なぜそういうですね汚染が起こったのか。これからですね、汚染をですねさせないためにどういう対策をするのかと、やっぱここにですね力点をおくべきであって、何か汚染がしてるからですね大変だ大変だ、そりゃダムだと。じゃあダムがなければどうするんですか、私たちは。本当に人間の知恵を出し合わなければならない問題ではないかというふうに思います。あのよな水を飲むためならいくらでも金掛かってかまわない。これも非常に乱暴な持論でダムの水が必ず安全だっていうことはありません。つい昨今でも奈良井川のダムがですね汚染されて松本の広域水道が全部ですね止まっちゃったっていうことだってあるわけですね。ダムの水が本当に安全かと。落葉樹が落ちてですねこれがどんどんどんどん堆積して行ってですねせき止められて、下へ沈殿したダム、水がですねある時浮き上がってきて我々に排出されたらどうなるんだと。やっぱりたんに感情的に扇情的にあおるのではなくてですね、汚染問題っていうのももっとも科学的に検討して全く対策がないんかということをよく検討していただきたい。以上です。

宮澤部会長

はい。いろいろ意見が出されました。はい、それじゃあ真ん中の方。はい。

岡谷市 大栄町 ハナオカ氏

私、大栄町のハナオカと申します。

私のうちでは昭和の初期に4間ほど掘った井戸水を飲んでおりまして、近所の方も水をくんでおいしい水だと。私もおいしい水を飲んででかくなったわけでございます。夏は冷たくまた冬はぬくとく、大変重宝に使わさしてもらっておったわけでございますが、50年ころ一応化学物質が汚染でということでもって廃止しました。それで3、4年前に井戸を埋めたわけでございますが、その間私が見たあんばいでは、夏は少しは水があったんですが冬は全然水がなくてからからの井戸でございました。これから二度と水を使うという機会はないもんですから埋めてしまったわけでございます。これも時代の流れかなと思っておりますが、ぜひとも地下水の水位の低下と私は思っております。これは汚染ということもありますが、地下水の水が少なくなってるということだと思います。それから私も環境衛生には大変関心を持っておりまして、ここにおいでになる市長さんはじめ県・国の皆さんのおかげで岡谷市は最終処分

場が樋沢にございます。それで拡張工事が去年の3月に完成しました。約6万立米(m<sup>3</sup>)埋め立てることが出来ます。それで隣の下諏訪町さんが最終処分場がなくてぜひ困るということでもって今岡谷の最終処分場で受け入れをしております。それで今現在岡谷市は水が不足しております、今私は去年から若い者と一緒に生活しております。それで水道料金が大幅になりましたもんですから水道部の方にお聞きしましたら、一日ドラム缶10本使ったつう勘定だということでありまして、私老夫婦が生活してた時は2、3日に一回ふるを入れておったわけでありまして、ところが若い者は毎日入っております。また小さい子どもは毎日手を洗ったり、また汚すから洗濯をしております。老夫婦の場合は洗濯も2、3日おきにやっておったわけでございます。それで一日200リッターのドラム缶を10本使ってる勘定だということでもびっくりしました。もしこの水がなかったら水洗トイレもできません。また生活もできません。水が不足ということになりますと、岡谷市民また工夫の住民はうんと困ると思います。どうか水を安定に私たちにいただきたいと思うわけでもございまして、ぜひとも部長さんの間で取りまとめはぜひ水の確保ということでもひとつお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

宮澤部長

はい、他に。今度は女性の方当てさしてください。セーターを着てらっしゃる後ろの方の方。今、後ろ向かれた方。はい。

岡谷市 西山 ハナオカ氏

私はあまり問題になってませんが、湊、西山を背にしたところに住んでおりますハナオカといいます。

私どもの西山の中には梨平キャンプ場というところがありまして、昭和50年ころは本当に水がとうとうと流れておりまして、皆そこで小学校なんかはキャンプをし、市民もそこを大いに利用していたわけなんですけれども、昭和60年ころから水枯れが始まりました。私のうちは諏訪湖から800メートルほどの道のりをなだらかな坂を上った標高830メートルくらいのところに小さな工場を営んでおります。そこには昭和48年、そこに30メートルほど掘り下げまして井戸を掘りました。その時には本当に水がほとばしり出ておりまして、まさか今の状態がという、そういう本当に考えられない状態に今なっております。私のうちの隣にも1軒うちが建ちまして、本当に水に心配するなんというようなことは本当に考えもしなかったわけなんですけれども、平成3年ころから水枯れはひどくなりました。そして平成6年の時にとうとう日常生活ができなくなりまして、そのお宅は住み慣れたうちを残して経済的負担も負いながら転居いたしました。私どもは工場ですけれどさほどたくさんのお水は使いませんが、水のない時にはドラム缶で諏訪湖の水をくみ上げて使っております。そのような状態の中で水がある・あるとおっしゃいますけれども、完全に地下水は減っている。それは私が実感しております。そして当たり前のように使っていたそういう水ですけれども、こんな水、こんなに水に苦労するとは思わなかったし、これからこの地も本当に大勢の人が来てここにうちを建てて住んでいくんだな、住めればなあ、岡谷も少しはそうしたことで土地の宅地の供給もできるのではないかな、と期待したのですけれども、それも本当にもう夢に終わってしまいました。そしてその時に私思ったんですけれども、世界の中で日本人が水に対する危機感を一番持っていないということが世界じゅうで言われているそうです。そうした中で2004年には木落として世界水フォーラムを開いて日本人に水への認識を喚起しようということ、そんなことが行われるというようなことも聞きましたので、それから今地球温暖化の問題

もありまして、それぞれの取り組みもされていると思いますけれども、やはりこれは私たちの生活様式も将来には変わってきてくることもあるかもしれませんけれども、やはりそれは生活の中で水というものを切り離しては考えられないことだと思っております。私は本当に自分が水がない。湊の本当に西山は先ほど水があるというお話しでしたけれども、山を背負っていてもやはり水は確実になくなっております。そんなことを考え併せまして、ぜひとも安全で安定した水の供給をしていただきたいと思います。以上です。

宮澤部会長

はい、ありがとうございました。今度はあの左側のあの方、はい。今の方。ええ。

下諏訪町 ニシムラ氏

下諏訪町のニシムラと申します。

砥川の利水を考えるのなら、その目的が水道水の取水である以上、水道というものをきちんと考える必要があると私は思います。住民に飲料水を供給する水道事業はほとんどが市町村の事業であります。これは水道事業の経営主体は原則として市町村とされているためであります。従って事業主である市町村の施策が反映されるものであり、それぞれに独自性があることが当然のことです。知事に認可の権限があるといっても計画はあくまで事業主体である市町村のものであり、市町村が独自に考えればよいことです。また、水道事業者は給水義務が課され正当な理由がなければ給水区域内の需要者からの給水契約の申し込みを拒否することができないんです。そして給水を受けるものに対しては常時水を供給しなければならないということが水道法で決められていると聞いております。今水が余っている、水が足りないというお話しもございました。水道をひねればすぐ水がジャーッと出てくるというお話しがありました。水があるからジャーッと出るんです。このように水源は余裕があつてしかるべきであり、ダムをつくるというそうしたときに水源を得ておくというのが不測の事態に対応するための備えでもあり、安定供給を義務づけられている水道事業では一つの見識であり常識であると思います。安全で良質な水を長期にわたって安定供給できるようにするのが水道事業者の責務であると考えております。今、下諏訪町と岡谷市の両市町が一部事務組合を設けて下諏訪ダムに利水参加をしております。これは安全で良質と定評のある東俣川の水を将来にわたって安定的に水道水にしたいという願いからあります。確かに両市町とも人口が減り、使用量も減少しておりますが、それは同時に課題でもあり、何らかの施策を採るべきものでもあると考えます。水道はこのような長期的な視野で捕らえるのが水道事業本来のものであるとも思います。井戸水が汚染をされている、井戸水源が汚染をされているという話しもありました。年により砥川の水が不足という説明もございました。ダムにより正常流量の確保を図りながら川本来の姿を維持していくことが必要と私は考えております。よろしくご検討いただくようお願いいたします。

宮澤部会長

はい。黒いカーディガンを着た女性の方。

岡谷市 今井 モウリ氏

岡谷市の今井に住んでおりますモウリと申します。

私は3点で意見を述べさせていただきたいと思いますが、まず第1点ですけど、冒頭ですね宮澤部長さん、またご説明いただいた浜ワーキンググループ長さんの方から、利水の問題は各自治体にかかわることですので県としてもそんなに...というふうなお話しがございました。しかしですね、もともとこのダムから利水するっていうことの中で経過に触れてみますと、治水だけでは今の計画中のダムはできなかったと思います。また逆に利水だけでもできなかったと思います。なぜか。それはですね国の方針の中で認可するについて多目的ダムでやらなきゃいけないっていう部分の推進方向が強かったこと。また逆に岡谷市・下諏訪町にしてみれば多目的ダムの方が補助金が多いということからなったものであります。従って、例えば下諏訪町の千トンの水が先ほど話題になりましたが、3、4千トン余ってるということで、下諏訪町さんが利水から下りれば岡谷市のこの計画につきましてもダムから給水することはできません。それはですね、行政組合をつくってやっているから岡谷市がよその自治体のところまでいってやってくることができるからであります。従って全体の問題として特に利水の問題につきましても本当に県としても重大な問題でありますので、その辺の部分の認識につきまして、冒頭ひと言申し上げさせていただきました。それから一つ、次の一つです。給水人口の問題ですが、先ほど1300万掛けての予測の問題につきましてありました。それでですね平成32年、岡谷市は6万400人になると。下諏訪町は2万いくつですか、になりますっていうのになっておりますね。しかし同じ県でやっていただいている資料の中で特に今一生懸命進めておいでになられる合併問題の推進要綱に添付されている資料で見ますと、同じ平成32年を見ますとですね、この予測がともずれているわけですね。例えば平成32年。岡谷市はこの資料によりますと4万3695人になります。下諏訪町は1万7830人になりますということで、非常にここにずれがあるわけです。同じ県でお進めなさっている事業の中でどうしてこのようにその時々に応じて採り入れるべき資料が違うのかという点が私にはまず第一に疑問であります。そういうことで予測をして、あと給水量の問題ですが、三つに分けて生活の間...飲料水。それから業務用、それから工場用ということですが、特に工場用の問題でたまたま持ち合わせの資料をお聞きしながら見ていたので、そのことについて触れさせていただきますと、岡谷市の工場用水のうち上水から取るものは大体13、平成12年度現在で13.6%であります。日量1万7千トン余を使っておりますのでその13.6%というと大体2400トンくらいですが、それが例えば岡谷市の場合ですと4400トン使うということ全体給水量の中に組み入れて計画をお立てになっているということでありますが、この工業用水一つに限って見ても、従来のものは昭和54年からやったものだと。今度やったものは平成12年以降ですか、ということですが、パブルの崩壊前と後との関係で言いますと、従来のものは岡谷市の工場数、大体横ばいの中で計画されたものであります。昭和56年からの資料しかありませんので平成昭和56年1144事業所。平成3年1155事業所。10多いうことでですね。それ以降はもう急坂を転げ落ちるように工場数が減少傾向を続けておりまして、平成11年で912。243事業所が減っているわけですね。こういうものも勘案に入れて4400トン必要だというふうに入れるものの中ではやっぱり考えられなければならないんじゃないか。これからどうなるかという経済予測を不透明としながらも増えていく方向だけ取り上げるのはいかがなものかというふうに思います。次に水質についてです。水質の問題につきましては、時間がないようですので、(宮澤部長 はい)ダムから取ればいかにも良質というふうにご発言もありましたけれども、そのトリハロメタンにつきましては、これは分解できない化合物ということで発がん性のあるものであります。トリクロロエチレンにつきましては今ばっ気しまして空気ちゅうに散布させて減少して使っているわけですので、ぜひ検討委員会の皆様方におかれましてはですね、このトリハロメタン。ダムから取水する

ことによる有害物質の問題につきましても、この機会に大いに検討をいただきますように重ねてお願いし、現状で岡谷市はトータルに見ても足りるし、ばっ気して良質の水を提供してるというふうに思います。もちろん対策はしなければいけないことは現状として事実ですので、それは予算を取ってきっちりやるべきだということを申し上げて発言とさせていただきます。

宮澤部会長

はい。ありがとうございました。途中ですけれど、私の方から先ほどメモを渡していただきまして、先ほどから何度も出ておりますトリハロメタン。この問題を含めてこれは実は部会の中でも1月の21日、委員の方から出された問題でございまして、ダム水の有害物質の発生の状況とか発生問題についてはお答えをいただきたいと利水ワーキンググループの浜座長にお願いしました。それからもう一つ、横河川が水量が多いという先ほどのお話しでございますが、この問題についても可能かどうかということについては再調査のご依頼を先ほどいたしました。その件につきましては、5日の部会の時にはこのお話の答えが利水ワーキンググループから発表されると思いますので、その問題のご質問はだぶらないでいただきたいと思います。

はい、他にいかがでしょうか。それじゃあ今度はこちら側から、上から3番目の方お願いいたします。

岡谷市 川岸 ホリカワ氏

岡谷市川岸のホリカワと申します。

私も今まで下諏訪の方で開かれてきた検討委員会の話しを何度か聞きにいたり、実際に岡谷の水源地などへ行って下諏訪ダムや岡谷の利水について勉強をしてきました。検討委員会の中ではいろいろな専門用語や細かい計算が飛び交い一般の人ではなかなかわかりにくいものだと思います。さらに岡谷の水が汚染されている、水が足りなくなる、砥川が危険だからダムをつくる、と言われればそう考えてしまいがちである状況にあると思います。よく水は多くあった方が安心してそれに越したことはないと考えてしまいがちですが、本当にそれでよいのかと考えることが私たちに今一番必要なことだと思います。今、岡谷ではイトーヨーカドーに続き東急も撤退することになってしまいました。これも同じことで、必要以上なものは必ずそのツケが私たち一人ひとりに回ってくるようになってくるということです。本当に何が将来的にその地域や社会全体の利益になるのか、と考えれば、賛成・反対という対立ではなくそれが実際に意味があるのか意味がないのか、またそれ自体が自然なことなのか・不自然なことなのかで考えればおのずと答えは出てくると思います。まず、岡谷の利水についてはですが、地下水の汚染、今後の水不足などが挙げられますが、汚染については汚れたから他から持ってくればの考えではなく、自分が使ったり汚した水をそのまま自分がまた飲むと考えれば、もっと今ある水を大切に使ったり、なるべく汚さないようにと考えることが必要でまた自然であると思います。岡谷市もそのために1基8千万円もする高度処理施設を5基4億円も使ってつくり、基準の10分の1にまで浄化できました。もしそれを今挙がっているダムから取水することになれば既にある水源のいくつかを廃止することによって二重の投資になるおそれや、水道料金の大幅な値上げや、薬品処理したダムの水に切り替えることになるのです。そもそも岡谷市自体水が本当に足りないかと考えた時、今時点での一日に供給できる水は約3万トンあり、年間での一日当たりの水量も2万4千で足りていることや、岡谷市の今後の人口調査からも減少する方向にあることから考えても水は十分足りていると考えます。また、先ほど話したように、もっと今ある水を大切に使うということを考えればまだまだ節水していけることはたくさんあると

思います。そして私たちの使った水を下流に住む人たちがまた飲み水として使っている現状から考えれば、私たち一人ひとりがその人たちの飲み水を管理しているんだという意識で普段の生活から心がけていく必要があると思います。岡谷市の市民憲章の中にも「自然を保護し、公害のない美しい環境の町をおつくりします」とあります。本当にそういうことをみんなで一緒に考えて行動をしていくことが大切だと考えます。もう一つの下諏訪ダムについてもですが、それ自体を自然なことなのか不自然なことなのかで考えればよいと思います。人間も血の循環が止まれば病気や死に至ります。自然界も同じで川は流れるのが自然であって、水が止まれば何らかの影響が出てきます。自然に反した影響として長崎の諫早の問題や山の木を伐りすぎるなどの開発によってその下流にある海の生態系をも崩してしまうこともあります。また、一度壊された自然を元に戻すことは容易ではないということは私たちはそれを身近にある諏訪湖というもので考えさせられたことではないかと思います。確かにダムによってメリットもありますが、それは短い間に見た範囲でしかないということです。ある程度のことは必要かと思いますが、一番安全なのは自然に逆らうことなく生活をしていくことだと自分は考えます。いくら人間が手を施しても自然の力に勝るものはないということです。アメリカの法律では5年以内に進まない事業は重要性がないということで撤回することになっています。下諏訪ダムは20年もそのままになっています。アメリカ・ヨーロッパではダム自体が長期的に見て経済面・環境面でなど総合的に考えた時メリットよりもデメリットの方が大きいということで今あるダムの撤去、再自然化が図られています。研究者の中には21世紀は本格的なダム撤去の時代になるだろうと言っている方もいるぐらいです。

宮澤部会長

そろそろ時間でございますのでまとめてください。

岡谷市 川岸 ホリカワ氏

はい。よく人の命はもっとも大切だと言われますが、私はそれに付け加えて、その命の存在も自然からの恩恵なしには生きていられないということです。ダムができたことによって今後の先まで安全な水や砥川流域の安全が維持していかれるのならよいのですが、私たちはあまりにも目先のことや今がよければという考えが社会の中には蔓延（まんえん）しており、今ある様々な問題も引き起こしています。と思います。本当の意味で後の世代にツケを回さない、胸を張って答えられるものを残していきたいと切に思います。ありがとうございました。

宮澤部会長

はい。他にいかがでしょうか。はい、その今度は、ええ。

岡谷市 川岸東 ハマ氏

川岸東5丁目のハマカズオキと申します。

私の意見はですね、一つは大きく日本だとか地球だとか宇宙だとか、ちょっとそういう視点、観点からちょっと考えてみたらどうかと、いうふうに思って意見として述べさせていただきたいと思います。いわゆる、60年、1960年代70年代80年代と、まさに高度経済成長と、それから列島改造論だとか、言ってみれば消費が美德ということでですね踊らされたって言う悪いんですけども、確かに賃金も上がったし施設もできたり、いろいろ豊かにはなった。物質的に豊かになってはきた、というふ

うに思っているわけですね。その結果と言うか、今まさにいろいろな形で言われている温暖化の問題で海面が上がるとか、森林が消滅してくだとか、あるいはフロンによるオゾン層が破壊をされて紫外線Bだとかですね、そんなものは植物の発芽に影響をするだとか、そういう、酸性雨による砂漠化の問題や、森林破壊の問題だとか、いろいろこの地球規模の問題としていろいろまさにそのツケが今出てきている。そういう視点でひとつ考えていった場合にですね、私たちの周りを見たとしても、確かに車社会という時代の中でピーナスラインの観光道路ができたり高速道ができたり、ゴルフ場はあっちこっち、もう諏訪の山並みずーっと数見ればたくさん開発もされてきているわけですね。すべてダムの問題についても、この間もいくつかもずーっとできて、小さいダムにしてもいくつかつくって、それが大体埋まってきているような時期だっているふうにいるわけですね。そうした、いわゆる物だとか、率直に言ってお金だとかそういうものに価値観を我々が求めてきたっていうか、何かそこにいき過ぎてしまった。言ってみれば人間の心の豊かさだとか精神的充足感だとか、そういうものっていうのを本当に今問い直す、考える時期ではないかっていうふうに私は思っているわけですね。だから今ある自然が持っている、今言われた、前の方がまさに自然の重要性っていうのを言われたかなと。私も本当に川が流れているから、生きている、水が流れている、その循環によって自然というのは、まさに海のこと山のことも含めてね、大気の問題も含めて、そういうものだ。そういう自然をやっぱり今後の中で残していく。そういう面では私は田中知事の「『脱ダム』宣言」まったく賛成でですね、本当にお金掛かってもそういうこと考えられないか、まさに今言った大きな転換点にあるところの考え方ではないかということをおっしゃっているわけですね。そういう面ではぜひこのダム、私は反対という立場で、そういう何て言う、大きなスパンって言うか、そういう視点でぜひ考えていただきたい。1点もう一つ、諏訪の水の、岡谷の水の問題ですけれども、自然にこれはひとつもう少し水源を探索してもいいじゃないかと。今先ほど自然の今我々が見れば山がこれだけある中で水源本当にないのかなっていう思いますし、今言った汚染の問題もですね、そうした大きな今までの我々の垂れ流しっていうか、未処理をしてきた結果のツケであるという。そういう面から含めてですね、岡谷市の水を本当にもうひとつ今の汚染をなくすことと、新たな水源は...簡単に言うと、自分の自治体の岡谷市が自分のところでやっぱり見つけることがやっぱ基本じゃないかと。人にならなければいいからいただくなんていうことより、まずね、そこが大事ではないかということをおっしゃって意見に替えさせていただきます。以上です。

#### 宮澤部会長

時間が狭まってまいりました。ですので、それぞれのご持論をご展開されるのはそれはもちろん結構でございますが、今日は私ども部会の人たちそれぞれが、地元の皆さんの生の声、水の問題どうするか。今回論点の抜粋を皆さんのご案内に差し上げたかと思えます。一つの問題は岡谷市・下諏訪町の現状の給水人口と現状。節水対策を考慮した水需給計画の検証をする必要がある。一つ、トリクロロエチレン等により地下水が汚染されており浄化を行っているが、今私どもの議論出ておりますのは、100%はトリクロロエチレンを除去できない。92%くらいだと。残りの8%は残ってしまう。また空中に飛んだそのトリクロロエチレンがどのような被害を及ぼすか。こういうような問題等も検討しております。それからダムの他にも新たな水源確保の可能性もある。新和田トンネルのわき水の問題等々。それから新たな水源に伴う水道料等の住民負担を検討する必要がある。こういうレベルで私どもが検討しております。どうかそういうような形の中でのご意見。それ以上の深刻なご意見。先ほどの昭和60年までには水があったんだけど平成3年の時にはもう水枯れ。これ毎日使ってらっしゃる方だからそうだと

思うんですが、水枯れが平成3年の時に初めてこのころから出始めた。今ドラム缶でもって諏訪湖から水をくみ上げて使っていると。こういうお話しございました。こういうようなお話しが私どもには欲しいわけでございます。それぞれの検討のお話については、部会の委員さんから21日も多く出された問題でございます。それももちろん大事でございますが、残りの時間は特にどうかそんな生の、こういうような状況がある。どうだこうだと。こういうようなお話し、生のお話しを私どもにももう少し集中的にお聞かせていただきたいと思います。

はい、向こうのこちら側の通りの一番真ん中の方。はい。

岡谷市 加茂町 オグチ氏

岡谷市の加茂町に住んでるオグチと申します。

私は30年代にですね就職に就きまして、同職の方だとかいたらご理解をしていただきたいと思いますけれど、表面処理という職に就いたわけですね。その時にびっくりするやらおどけるやら、トリクレンは当たり前。クロム酸当たり前。青酸ソーダ当たり前という。これをまあ平気で水の中に垂れ流ししてる。それが毎日の生活。私7、8年やりました。えらいことしたんだなっていう。まだあの時えらいことやってたんだなと。それから次に何ですかいわゆる浄化装置をつけなさいということで、各表面処理工場、多分県の予算、国の予算で設置したと思うんですけど、その私のやっている以前から多分そういう生活だったと思うんですよ。その何十年、まあ何十年って言っても30年前なのか、私の始まる10年前なのか20年前なのか、それはわかりませんが、そういう積み重ねがですね岡谷のこのいわゆる地下水源の汚染につながっちゃったんじゃないかなと。これはいくら行政が頑張っても頑張りが足りない。いわゆる浄化設備を付けても知りえる問題じゃないと思うんですよ。やっぱりそういうことを考えれば、汚した私も責任はあるんですけど、今になって後悔してもしょうがないと思うんです。だからですね、ぜひこの水はですね、下諏訪さん、協力をしていただけるということですので、ぜひ追考していただければ有り難いなと思っております。

宮澤部会長

今、地下汚染の問題がありました。先ほど来、私どももこの地下汚染の問題のことについては、岡谷は全国と同じレベルだとは取っておりません。岡谷は特に汚れているんだというデータに基づいて岡谷市のこの問題について取りかかっております。他よりは汚れてる。ものすごく汚れてるという認識に立って岡谷市の地質、それから水質の問題については考えております。

他にどうですか。生の意見を。はい、じゃあ前でのその方。

下諏訪町 タカムラ氏

私、下諏訪町の大門通りに住んでおりますタカムラでございます。

今、汚染の問題がありますけど、これは個人の問題でなくて企業の問題ですね。企業。岡谷市から撤退していった企業もありますから、その古い方に聞けば今のようなお話しは聞けるはずでございます。本当に垂れ流しです。今更その責任を取ってお金を取るかどうかっていうことはこれは別の問題。私岡谷の市長じゃありませんが。そういう結果こうなったっていうことはこれは明確にすべきだと思います。個人の問題じゃないんです。大きな工場で伊那の方へ行った企業もありますから。聞いてみてください。ほとんどやってきました。それから水の問題で足りなくなるという話しです。私東急が撤退するつつ新

聞記事を見て岡谷の市長さんえらい苦渋の選択でもないが、あれですけど、大変ことでしょう、これ。しかし、ダムを計画した時点では企業は発展し人口は増えてバラ色の構想だったじゃないですか。結果は違いましたね。海外へどんどん流出。倒産が増え失業が増え、商店がどんどんやめていきました。水利用が増えるわけじゃないですか。人口は増える見通しは全然ありませんよ、これ。32年、どうなるっていう。そんな甘いこと言ったってだれが信用しますか。下諏訪だってそうじゃないですか。増える保障はないでしょう。減るばかりじゃないですか。だから水道水が余ったと。ね、町長さん。来年は値上げするっていうんですよ。岡谷市に売ったらどうです。そんなに困ってるなら。負担にならんねえじゃないですか。同じ組合ですよ。パイプつなげばいいじゃないですか。だから汚染の問題は別の次元の問題なんです、これは。別の角度から検討しなきゃだめなんです、これは。町長さん、水道の値上げはまずいですよ。そんなに岡谷が今欲しいんならば、あんなきれいな水道水を売って下諏訪の財源を豊かにしてもらった方がいいじゃないですか。岡谷の人にも喜ばれると思いますよ。そういう思いを私は思っておりますから、1300万円掛けて検討された。結構でしょう。見通しがこれからますます繁栄するなんてだれが思ってますか、これ。そんな現実離れた検討をされてるのはちょっと首をかしげるわけでございます。東急が撤退する。まだここで倒産する企業も出るでしょう、これ。この現状に立ってえらい100年も向こうの話をしたってだめなんです、これ。ここ10年か20年の話しをしなけりゃ。ね。20年も長いくらいですよ。歴史は非常に早く動いてますから。そんな検討を委員の皆さんに真剣にやっていただいておりますけれども、ダムをつくるという原点の時の理由はなんであったか。汚染は後の話しです、これ。そのことをふまえてご議論をいただきたいということを今日申し上げて発言いたします。

宮澤部会長

他に、いかがですか。はい、マスクを掛けられた方。

下諏訪町 ナイキ氏

下諏訪町のナイキと申します。

我々は毎日飲んでる水が果たして大丈夫だろうか。先ほどもハナオカさん、湊のハナオカさんの話がございました。大変心配になります。こうした現状が今あちこちで起きてるということでございまして、実態を聞いて本当に悲しいことだと憂慮すべきことだと思います。基準以下だけれども長い間こうした水を飲む。本当に大丈夫なんだろうか。先日もこの部会でこの件についてトリクレンについて今も部会長さんが話しありましたが、話された。引き続きお願いしたいとございまして。それで部会の皆さんにぜひ検証していただきたい1項目がございまして。それは硝酸性窒素、並びに亜硝酸性窒素の汚染でございまして。毎日飲み続けていると貧血を起こしたり、発がん物質を生成するか、乳幼児の突然死というこうした因果関係もWHOで、あるいはまた西欧諸国で指摘されてるところにもございまして。近年指摘されただけに本当の実態っていうのは今わかっておりません。そういうことで、岡谷と21の水源をちょっと見させていただくと、東町の...東堀の水源が、今この基準値は1リットルあたり10ミリグラムが基準値でございまして、東堀は7から8。平成8年の9月でしたでしょうか。これ公開されておりますので調べていただければわかりますが、限りなくこの基準値に近くという現状でもございまして。それで私の近く下諏訪町の近くには後道水源でございまして、ここは平成9年までは2%台でございましてが平成9年以降、2%ではございませぬ。2ミリグラム台でしたが、平成10年以降からは3.5ミリ

グラムの数値を示してるっていうのが現状でございます。これは煮沸しても、また地下水に長くおいても、これは除去することができません。ですから、今のばっ気装置を使っても東堀の関係する方々はこうした硝酸性窒素のですね、少なくともあまりよくない水道水を飲んでおられる、ちゅうことです。できれば部会で検討していただいて、検討すれば従って東侯からダムを取る以外ない。こういう結果が導かれてることと思いますので、私は東侯からダムをつくってダムを取水していただく、こういう考え方でございますので、どうか1点申し上げてですね、細かいことはまた資料はお渡しますので、ぜひご覧いただければと思います。以上で意見を終わらしていただきます。

宮澤部会長

はい、他に。ええと、どうぞ。

岡谷市 長地 フリハタ氏

岡谷市長地柴宮から来ましたフリハタと言います。

今年の年賀状の一枚に明治45年生まれの方からいただきました。この方は中国通でありまして、いろいろ詳しいんです。その中にこういうこと書いてありました。中国の全国人民代表者会議の議長の李鵬さんは皆さんご存じの周恩来元総理の養子息子でございますね、この方がこう言ったそうです。あと2、30年すれば日本はだめになるよとね。今そういったような状況にあるのが日本だと思うんです。それはさておいて、岡谷でも下諏訪でも水が足りないと、こうおっしゃってますね。そしたらさっき上野議員が諏訪湖の水は飲めないよとおっしゃいましたが、じゃあその飲めない水を、さっきだれが言いましたね。中水道。上水道・中水道・下水道。日本にはこの中水道一つありませんね。この中水道を通じて諏訪湖の水を上げ、それでふん尿を流す。または散水をする。または車を洗う水にすれば、殺菌消毒された飲料可能な水を節約することは可能だと思います。こういう観点をふまえていただいて、日本が300年後にはなくなるなんていう話しも聞きました。そういう中でなぜ日本はこうなったんだろうと思った時に、やっぱりお金の掛かる事業にいるんな人が群がっているいろいろな理由があるという、そういう悪習慣が今日の日本を招いたものと私は解釈しております。コンクリートなどで自然を破壊しないように、よろしく願いいたします。終わります。

宮澤部会長

あの先ほどから中水道の問題が出ております。先ほどこれがどんなような状況があり、どういうふうな形ができるのかっていうことも、ちょっとご検討をいただくように先ほどお願いしてございます。この問題につきましてもどうぞ時間がもうあと5分ほどしかございませんので、どうかご抽象的な意見はそれぞれのところでまた述べていただくとして、今日はどうかこの利水の問題にこだわっていただいて、せっかく住民の皆さんの切なる思いをお聞きしたいということでやってるわけでございますので、お願いいたします。じゃあ、私の正面の一番後ろの方。

岡谷市 加茂町 ノザワ氏

岡谷市加茂町のノザワと申します。

部会長さんのお話のとおり、もう端的にお話を申し上げます。まず、今一番感じるのは、今日出していた数字が3万3800ですかね、ああいう数字と現在の岡谷の能力を3万2千という部分があ

ります。これで果たして余裕があるのかどうかという、やっぱりどうしても新しいもの用意しなきゃなという感じがします。それから、横河川の話が随分出ました。私は横河川のところから大体100メートルくらいのところに住んでおります。流量はやっぱり非常にですね、流量変化の大きい川だというふうに思っております。夏になりますと私のところぐらいいも水が流れてこないというのは現実でありまして、これから水を取るということは非常にやりくりがそういう時期には大変だなというふうに思っております。もちろん横河山委員会の皆さん。これが本当に一生懸命毎日毎日山へ入っていただいて、そうして手入れをしていただいた結果が実はこういふことでございますんで、もちろん山のこの手入れは非常に大事です。大事ですけどもこれがそうしたらすぐそれじゃあ明日どうのこうのという話しにはなる分じゃないなというふうに思います。それから今日のデータのお話しの中でいただいた分では、例えば有収率が90を超えたというようなデータ、試算をされておりました。岡谷市も今85くらいですかね。県下でも非常に高い方じゃないかと思うんですけども、その90というのは非常に大変な数字だというふうに思いますけれども、そういう中での試算の中でのそういうことですから非常にきついなあというふうに思います。ただ一つ、経験というか、ちょうど私が今年でサラリーマン生活いよいよ40年目に入ります。駆け出しのころだったか、あるいは高校生のころだったかちょっとはっきりしませんが、非常に水がなくて苦労した覚えがあります。昔加茂町の辺、当然そのころはですね、銭湯主体ですよ。自分のうちなんか風呂なんかありません。水道も共同水道でした。そういう時に実は水がなくて、そしてあちらこちらどこまで行ったかちょっと覚えがありませんけども、本当にもらい歩いた。これはある程度一人前になってからの話しです。いう経験がございます。そういうことから見ますとですね。水は少々余裕を持ってなきゃいかん。そしてまた、そういうことが、それをまた用意をして後世に伝えるのが私たちの仕事じゃないかと、こういうふうに思います。そういう意味からいきますとこの際東侯からぜひ水をいただきたい。これが私たちの、また将来の岡谷市の人間にですね、やっぱり伝える大事な仕事じゃないかと思っております。以上です。

宮澤部会長

ありがとうございました。時間になりました。

まだご意見があられる方がおいでになられることはよーくわかりますし、どうか今日ご意見ございました方は検討室あてにですね、すいませんが、いま今日お持ちの方は結構でございます。ここでご提出をいただきたいと思っております。

今日、私どもこちらに検討委員の先生方、座っておいでになります。こちらには特に行政を代表するお二人の特別委員さんにお座りいただいております。それから、募集で決められた特別委員さんが座っておいでになります。今日の論議、21日にも多く出た論議もございます。2月の5日、11時から、私ども集中的にこの利水問題を検討させていただきたいと思っております。そこで、今日出たご意見をそれぞれ検討させていただいて、公開でやっておりますし、公表しております。また、このことを今日の発言の中に出たけれど触れてないじゃないかと、こういうふうなお話ございましたら、どうかざっくばらんにお話を、検討委員会の事務局の方を通じて私どもの方にいただければと思うところでございます。今日3日でございます、それぞれ5日ということで大変急でございますけれども、大変今盛り上がっておりますし、それぞれ重要な意見ばかりでございます。多分、市長さんも町長さんもいろいろなことのご意見に対して、また今現状こうだよというお話もあったかと思っております。特に利水の問題は市長さん町長さんが総責任者でいらっしゃるし、そういうふうなこともございまして、そこら辺の問題の、

もちろん先ほど女性の方から出されたように、私どもしっかりと連携を深めて結論を出していくことはもちろん当然なことでございますけれど、どうか見守りながらご意見を言っていただきたいと思います。

そしてこの委員会では、過日もそれぞれの案をございましたですけど、最終的には岡谷市、下諏訪町の皆様方の問題であります。どうか、皆様方にお返しをする一定の方向が出た段階で皆様方にそれぞれのご判断をゆだねさしていただけるような状況のことが、きっと想定されてくるというふうに、私部長個人的には想像しております。どうか、皆さん方のそれぞれのご意見を、本当これからもどうか事務局またはそれぞれの委員の方々にもお話いただければと、こんなふうに願ってやみません。

大変長時間になりました。マスコミの皆さんも、それから今日は県の方の皆さんも、例えば公害課長さんをはじめとして、それぞれお忙しいやり繰りをして日曜日飛んできていただいております。今日の論議をしっかりと部会の検討の中に取り入れながら集中的に論議していきたいと思っております。本当に今日は大変お忙しいところ、それぞれ有意義なご意見をいただきましてありがとうございました。

---

以下事務局に寄せられた意見

下諏訪町萩倉 林 勝利・増澤好紀

下諏訪ダムから水道用水をとることについて

今までの検討委員会で、ダムをつくって、砥川を改修する案と、砥川をコンクリートで固めて深くする案の二つにしばられてこれからも検討されると聞きましたが、コンクリートで深くする案だけでは、砥川からの取水は出来ない事になります。

ダムは洪水調節と並んで、渇水の時でも一定量の水を川に流し続けるという働きがありますが、どんな時でも必要な水を取水できることが、大きな特徴で、みんながダムを期待しています。萩倉の木落の上には「岡谷市の水道水を救え」という大きな看板があります。これは第6区ダム対策委員会や、萩倉の住民の心からの支援であります。

東俣川はいつも豊富な水が流れているとは限りません。渇水の時などは、町の水道課から頼まれて、農業用水である萩倉せぎの取り入れ口をしばって、東俣浄水場へ工面してやった事は何度もありました。このことは萩倉の人ならみんな知っています。ダムが出来れば、こうした心配はなくなるのです。水は天から授けられる最大の贈り物であります。誰の物でもありません。いつも仲良くしてるお隣の岡谷市で、深井戸が枯れたり、地下水が汚染されて困っているとなれば、当然東俣のいい水を岡谷市で使ってもらうべきです。それには、どうしてもダムを造らないことには始まりません。「岡谷は水が足りてるからいいんだとか、汚染を薄めて飲めば大丈夫」等とダム反対の人達は言いますが、下諏訪の普通の住民は絶対そんなことは言いません。

今度の取水は、100年 200年の先を見据えたものと思って頂かなくては困ります。今後何が起こるのか分からない。その時のために、取水できるこのチャンスを絶対に逃してはならないと私は思います。

岡谷市川岸東 宮沢

- ・ 結論的には、安心して飲める水を安定して供給してもらいたい。
- ・ 岡谷市の水道水源は地下水と湧水によるもの 80%以上で表流水については、10 何%と聞いております。
- ・ その地下水については、高地の水源を除き、ほとんどがテトラクロチエン、トリクロチエンにより汚染されており、一部では基準を超えて廃止したところもあると聞いている。又、水量をアップすることにより水が涸れたところや水位が下がったところ等があるとのことで水量が足りているのか心配になる。
- ・ 私は高い所に住んでいるため、以前には決まって断水になったことがあり心配になる所です。今下水道工事も始まっており、尚更心配になります。
- ・ 今地下水が主のようですが表流水をもっと増やして良いのではないかと考えます。質の良い水であれば 10 年 20 年先でなくもっと先を見て水の確保しておくことは大事なことで考えます。余っても使い道があります。横河川の水が充分あればそこからでも良いのですが、現在は諏訪湖に入っていく水は少なく川の自然も失われていると思います。横河の自然が失われられないためにも一考をしてほしいと思います。

岡谷市山手 武居光彦

地下水の低下の件について

私は山手に住んでいて高速道の岡谷トンネルの掘り始めている最中に庭の前の川が枯渇しました。

今高速道の通過は諏訪地方の歴史上一番大きな土木工事と思われるのですが、諏訪市湖南の各川の出水事故はあの上に中央道が通過してその水が急に流れたためだと思います。私の間下地区や岡谷水道の枯渇も高速道だと思います。湊の花岡さんの井戸の枯渇も高速道のトンネルが湊地区の地下水（または表流水）に影響していると思います。地下水の低下は湖北トンネルも同様だと思いますので、水道用に汲み上げただけの原因ではなく、トンネルへの湧水をどう利用するか考えてほしい。

岡谷市山下町 野溝道子（岡谷のみ水の会員）

傍聴者の意見として

○ 湊の花岡さんの発言について

湊の山はかつて水がたくさん出た。それが枯渇したということについては、県が戦後カラマツの植林を指導してきたが、木材が売れず山は荒れるにまかされたということです。地域の古老は山の荒れることにとても心配しています。いたる所で水が吹き出した山に再び戻す為、山の植林をすべきです。

○ 新しい水源について

湊の「栃久保」かつて岡谷市も取水を検討して地元の反対でやめた経緯があります。その後、田をつくる人が減少して、水を売りたいという地主の声もあり、再検討の余地はあります。

下諏訪町萩倉 今井満行

トンネルの水を飲料水にすべきではない。

「有料道路のトンネルから出ている水を水道水にすればよい」という意見があるようですが、新和田トンネルの下諏訪側から出ている水の一つは、トンネルの中の側溝を流れてくる。誰が考えても、側溝の水を飲料水にしたいくはないでしょう。根拠もないのに「ダムの水はまずい。」と勝手に決め付ける人達が、側溝の水を飲料水にしると主張するのは、滑稽でしかない。

もう一つはトンネルの底、コンクリートを打った下に埋めたパイプから流れてきます。近くに行くと、ヒューム管で川に落としているのがよく見える。人に聞けば季節ごとの量が大きく変化すると言います。これも大きな問題。量がしょっちゅう変わるような水は、水道に使えない。

下諏訪と岡谷はより良質な水がほしいということで、砥川でも水質的には全く問題がないが、わざわざ東俣川から水を取ることにしたはず。私はこれを大英断だと評価しています。町民に砥川の水と東俣川の水、どちらを飲料水にしたいかを聞けば、殆どが東俣川だと言います。それだけ良質な水だと皆知っている証拠に他ならない。

しかもダムから出た水は真ぐ下で、毎日2万8千トンもの蝶が沢発電所の水と一緒にになり、その間にあるたくさんの沢水を加えて、流れ下って来るものを取るのだから、水質が悪くなることは考えられない。ダム上流は国有林と国定公園がほとんど。汚染源などありません。水が汚れる第一の原因は汚染源です。汚染源がなければ水質はそれほど変わらない。諏訪湖がどうして汚れてしまったのか。それからどうやって今日まで回復してきたかを考えれば、汚染源を断ち切ることの大切さがよく分かるはずだと思います。

東俣川の良質な水があるのに、市街地から10数キロも離れたところにあるトンネルの、しかも側溝の水や、わけのわからないような水を、わざわざ取る必要がないでしょう。このトンネル工事の際、和田側で沢の水が減ったために、覚書で一定の量を和田側に帰属させているのは、もともと何らかの形で下諏訪側と和田側に流れ出ていたものだから、そうしている。だから、新しく水が見つかり、そのまま使われずに、砥川に流れ込んでいるというものではありません。しかも20数年来砥川に流れ込んでいるのだから、砥川の流量になっている。加えて、岡谷市はこの水の帰属には全く関係ない。帰属を主張できないわけです。こんなややこしい水を水道水にするべきではないと思います。

下諏訪町町屋敷 高山登美子

私は、水の有り難さについて、いつも感じていることを申し上げてみたい。

今、世界中で水不足に悩んでいる地域がたくさんある中で、諏訪にずっと住んでいる人達にとっては蛇口をひねれば、いつもきれいでおいしい水がでることが当たり前で、断水や汚染などでこま困った経験は殆どないと思います。しかも水道料は県下一安く、都会の友達からいつも羨ましがれます。

また、あまり大きな声ではいえませんが、上諏訪や、岡谷の水と味がぜんぜん違います。それというのも、和田峠から向こうへ降った雨は、日本海へ流れますから、いちばん山の高いところに降った水を飲んでいるわけで、美味しいのが当たり前と言えは当たり前です。しかし、下諏訪でも3000m<sup>3</sup>の井戸水にトリクロロエチレンの汚染があると聞きましたが、この井

戸からの水は水道に使わないで頂きたい。お隣の諏訪市でも、つい最近新聞にありましたが、諏訪の水を考えるグループが出来て、水源や水質、それに、水の味などについて研究していくそうです。何れは岡谷も下諏訪も諏訪市も合併しますから、東俣の美味しい水をみんなで飲めるよう、ダムが出来るのを機会に、目先のことばかり考えずに、100年先を見据えて、町長さんにはがんばっていただくようお願いしておきます。

下諏訪町町屋敷 山岡明

ダムに反対する人達は「ダムの水は腐る」と勝手に決めつけていうが、何を持って腐ると言うのか。通常、肉や魚は最近などに汚染され、食べるに耐えられない状態を「腐る」という。

「ダムの水は腐る」というなら、ダムから水道水を取水しているところは、腐って飲むに耐えない水を飲んでいることになる。東京や横浜などの大都市圏の水は、ほとんどダムから賄っているから、そこに住んでいる人は皆腐って飲むに耐えない水を飲んでいることになる。

これほどふざけた話はない。ダムが嫌いなのはその人の勝手だが、こういうデタラメを、ダム反対のために平気で言う人は信用できない。ダムを造ることで水を貯め、その水を水道水として利用するのは、日本全国で行われていること。水を有効に利用する方法の一つとして、水道が生まれた当初から行われている。

岡谷市のお隣の塩尻や松本でも、奈良井ダムの水を下流から取水している。下諏訪ダムと同じ形だ。この水が腐った水だと聞いたことはない。トリハロメタンで困っていたということも聞いたことがない。奈良井ダムは完成して20年近く経っているはずだ。

岡谷市のトリクロロエチレンによる地下汚染を考えれば、一刻も早く水を手に入れて、切り替えるべきだ。下諏訪でも深井戸の水源でトリクロロが検出されていて、汚染はすすんでいる。これもいずれは切り替えるべきだ。それにはダムを建設して、東俣川から水を取るのが、今までの経過からして最も有効な方法だ。既に水利権を持つ人達の承諾も得ているのだから。

岡谷市田中町 梅垣良男

ご苦労様です。1月21日の委員会に初めて傍聴させていただき、ダムの必要の可否についてはいまま少し勉強する必要がありますので、軽々に申し上げることは差し控えさせていただきます。

私は環境分析を業としており、過去2回にわたる利水の議論の中で、岡谷市の上水道水質の揮発性有機塩素系化合物（トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等）による汚染については、依然より憂慮しておりました。

岡谷市は現在、危険水源に対し高度処理機を設置し、当該物質を基準以下に浄化して給水を井行っております。1月21日に各委員より提案のあった諸項の中で、以下につきましてご意見申し上げたいと思います。

- 1 「高度処理機により大気中に放出された有機塩素剤の処理は全くなされていない。」点については、活性炭等により処理すべき問題だと思います。原水の中にあるが、大気中にあるかだけで、放出された有機塩素剤は地上に落ち、地下に浸透していくことになり、悪循環の繰り返しにすぎません。ただ、この処理には多額の費用を要しますが、これは行政として責任のある処理をすべきであるとあえて苦言を呈します。
- 1 「土壌中の浄化方法があるので、岡谷市は実施すべきである。」太平建設会社等が、土

壤浄化方法を開発研究し、私の知っている範囲でも 10 社以上が発表されています。しかしいずれも実験段階で、実用に至っておりません。県下でも某会社が過マンガン酸カリウムによる酸化処理で実用に至りましたが、思わぬトラブルで中止となっております。また微生物による浄化というご指摘もありましたが、例え浄化できたとしても、その微生物による処理水が飲料水として安全であるか確認すらできておらず、これとて厚生労働省の許可に至るには長時間を必要とし、貴委員会で論議すべき事でないと思います。

- 1 「トリハロメタンについて」、現在のところ、岡谷市水道水の水質検査では、トリハロメタンの数値は基準値以内を推移しております。意見書の発言の中に「ダムの水はトリハロメタン発生を招く」というご発言がありました。いかがなものでしょうか。塩素消毒を実施している飲料水、プール水等はその生成が充分予測される場所です。トリハロメタンだけを強調されることは感心しないことだと思います。

岡谷市川岸西 中島康光

先日は皆様大変お忙しい中、公聴会をご開催いただき、誠にありがとうございました。これからの社会を担うべき、若い世代の参加者が少なかったのが少し気になりますが、2 時間の間絶え間なく皆さんからの発言が続き、なお、意見を言い尽くされぬ状況を目の当たりにして、事の切実さを再認識いたしました次第です。

さて、公聴会におきましては、皆様にお譲りし、発言を控えておりましたので、書面にて私の意見を申し述べさせていただきたいと思います。

まず非常に具体的な事実を申し上げます。私の住む夏明（岡谷市川岸西）には、かつて地域内の生活用水の全てを補っていた後田沢川が流れています。この川の上流に、もう十年も前になるかと思いますが、砂防堰堤が建設されました。そしてこの堰堤ができてから、川に生息していたサワガニが影を潜め、ホタルがその数を減らしました。以来、かつてはそのまま飲んでいた川の水を、いまでは飲む人は殆どいません。

砂防堰堤の建設は、地域住民の要望によって行われたものです。この件について、もう議論の余地がないのは明白です。

しかし、我々はこの痛ましい事実から、改めて次のことを認識しなければなりません。

- 1 水をのんでいるのは、我々人間だけではありません。
- 2 環境に無遠慮な治水工事が、そのまま飲んでも問題のない水を大掛かりな処理を必要とする水に変えてしまいます。

こうしている今も、十分な調査がなされないまま、各地で治水工事が行われています。貴重な水源が失われているものと認識すべきです。ダム建設について、言うまでもありません。もっと総合的な視点から調査・検討し、今ある有用な水源の維持・確保、ひいては自然環境の保護に努めるべきです。

以上につきまして、よろしくご検討の程お願いいたします。